

2025 年度

柔 整 学 科

- ・ 教育課程表
- ・ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
- ・ 授業概要（シラバス）

IGL医療福祉専門学校

柔整学科教育課程表

教育内容		指定 単位数	授業科目	区分	単位数	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	14	臨床心理学	講義	2 (30)	2 (30)		
			保健体育	講義	2 (30)	2 (30)		
			生物学	講義	2 (30)	2 (30)		
			コミュニケーション	講義	2 (30)	2 (30)		
			国語	講義	2 (30)	2 (30)		
			栄養学	講義	2 (30)		2 (30)	
			情報学	演習	2 (30)		2 (30)	
	小 計	14			14 (210)	10 (150)	4 (60)	0 (0)
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	解剖学Ⅰ A	講義	4 (120)	4 (120)		
			解剖学Ⅰ B	講義	2 (60)	2 (60)		
			解剖学Ⅱ	講義	2 (60)			2 (60)
			生理学Ⅰ	講義	4 (120)	4 (120)		
			生理学Ⅱ	講義	2 (60)			2 (60)
			運動学	講義	2 (60)			2 (60)
	疾病と傷害	11	病理学概論Ⅰ	講義	2 (60)		2 (60)	
			病理学概論Ⅱ	講義	1 (30)			1 (30)
			一般臨床医学	講義	2 (60)		2 (60)	
			外科学概論	講義	2 (60)		2 (60)	
			整形外科科学	講義	2 (60)			2 (60)
			リハビリテーション医学	講義	2 (60)		2 (60)	
	柔道整復術の適応	2	柔道整復術の適応	講義	2 (30)		2 (30)	
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	8	柔道Ⅰ	実習	2 (60)	2 (60)		
			柔道Ⅱ	実習	1 (30)		1 (30)	
			柔道Ⅲ	実習	1 (30)			1 (30)
			衛生学・公衆衛生学	講義	1 (30)		1 (30)	
			関係法規Ⅰ	講義	1 (30)		1 (30)	
			関係法規Ⅱ	講義	1 (30)			1 (30)
	医学史		講義	1 (30)	1 (30)			
	社会保障制度	1	社会保障制度	講義	1 (15)			1 (15)
	小 計	37			38 (1095)	13 (390)	13 (360)	12 (345)
専門分野	基礎柔道整復学	10	柔道整復基礎理論Ⅰ	講義	2 (60)	2 (60)		
			柔道整復基礎理論Ⅱ	講義	2 (60)	2 (60)		
			柔道整復学演習	演習	1 (30)			1 (30)
			基礎総合演習 A	演習	4 (120)	4 (120)		
			基礎総合演習 B	演習	1 (30)			1 (30)
	臨床柔道整復学	17	臨床柔道整復学Ⅰ A	実習	2 (60)		2 (60)	
			臨床柔道整復学Ⅰ B	実習	2 (60)		2 (60)	
			臨床柔道整復学Ⅱ A	実習	2 (60)			2 (60)
			臨床柔道整復学Ⅱ B	実習	2 (60)			2 (60)
			臨床柔道整復学演習Ⅰ	演習	2 (60)			2 (60)
			臨床柔道整復学演習Ⅱ	演習	2 (60)			2 (60)
			総合演習Ⅰ A	演習	2 (60)		2 (60)	
			総合演習Ⅰ B	演習	2 (60)		2 (60)	
			総合演習Ⅱ	演習	1 (30)			1 (30)
	柔道整復実技	17	包帯固定学	実習	2 (60)	2 (60)		
			柔道整復実技Ⅰ	実習	2 (60)	2 (60)		
			柔道整復実技Ⅱ A	実習	2 (60)		2 (60)	
			柔道整復実技Ⅱ B	実習	2 (60)		2 (60)	
			柔道整復実技Ⅱ C	実習	2 (60)		2 (60)	
			柔道整復実技Ⅲ A	実習	2 (60)			2 (60)
			柔道整復実技Ⅲ B	実習	2 (60)			2 (60)
			柔道整復治療学Ⅰ	実習	2 (60)		2 (60)	
			柔道整復治療学Ⅱ	実習	1 (30)			1 (30)
	臨床実習	4	臨床実習Ⅰ	実習	1 (45)	1 (45)		
			臨床実習Ⅱ	実習	1 (45)		1 (45)	
			臨床実習Ⅲ	実習	2 (90)			2 (90)
	小 計	48			48 (1500)	13 (405)	17 (525)	18 (570)
合 計		99			100 (2805)	36 (945)	34 (945)	30 (915)

2025年度「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

柔整学科

授業科目名	担当教員	単位数	担当教員がどのような実務経験をもち、実務経験を生かして、どのような教育を行うのか
包帯固定学	柳楽 美作男	2	接骨院の開業経験をもち、現在も附属接骨院で臨床を行っている。経験豊富な臨床経験から得た知識を授業内で展開し、各種外傷の固定法について理論を含めてきめ細かな実技指導を行う。
柔道整復実技Ⅱ A	森山 嵩大	2	附属接骨院での臨床経験をもち、現在も施術に当たっている。下肢の脱臼・軟部組織損傷に対する検査法・固定法ならびに、トレーニングに対する豊富な経験・知識を応用した回復期のリハビリテーションについて指導を行う。
臨床柔道整復学Ⅰ A	埴 義徳	2	接骨院での臨床経験や、各種スポーツ現場でのトレーナー活動を行うとともにトレーナーの育成や、セミナーやイベントの講師など幅広い経験を持て、現在も活動している。その経験から得た知識を活用して上肢の外傷に対する検査法・固定法等を指導を行う。
総合演習Ⅰ A	岡 智宏	2	クリニックでの勤務経験、接骨院（整骨院）の開業経験をもち、現在も附属接骨院で臨床を行っている。数多くの臨床経験から得た知識を授業内で展開し、学生の外傷を診る力を育成する教育に取り組んでいる。下肢の外傷に対する考え方・固定法等を指導を行う。
臨床柔道整復学演習Ⅱ	太田 浩之	2	整形外科にてセラピストとして臨床を経験。運動器の急性期、回復期に対するリハビリテーションの経験を持つ。患者への的確な指導や施術に直結する基本的な医用画像の知識を理解し解釈する能力を指導する。

合計

10

学科名 柔整学科		科目名 臨床心理学		担当者 河村 隆史	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 臨床治療に携わる人にとって治療技術の習得が目的であることはいうまでもない。加えて、現在、治療の実践に当たって一人ひとりの人間を全体的存在として理解し治療することが求められている。本講座では、臨床心理学のこれまでの研究成果をもとに人間理解を深めることにより、治療効果を高めることを目的とする。					
[内容の概要] 臨床心理学の歩み、心の構造、性格類型、心の発達、心理検査、心理療法について学ぶことで、人間理解を深める。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 治療が単に対症療法だけでなく、病を持つ人、すなわち人間であり、その人間を全体的存在として認識して治療場面に臨むようになり、治療者の資質向上につながる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 チーム医療と多職種協働 2 健康心理学（臨床心理学） 3 健康心理学（臨床心理学）におけるアセスメントと支援 4 ストレスマネジメント 5 医療心理学（臨床心理学） 6 医療心理学（臨床心理学）におけるアセスメントと支援 7 心理学の実際 精神科、児童精神科 8 心理学の実際 独立型心理室 9 心理学の実際 心療内科 10 心理学の実際 小児科（母子保健含む） 11 心理学の実際 緩和医療 12 産業保健、保健活動 13 災害心理学 14 保健医療分野で必要な法制度 15 まとめ、試験、解説 （注）講義の進み具合で上記スケジュールに変更があることをご承知ください					
[使用テキスト・参考文献] プリント（レジュメ） 「公認心理士カリキュラム準拠 健康・医療心理学」第2版 医歯薬出版株式会社			[単位認定の方法及び基準] 期末試験結果を重視し、小テスト、出席状況、授業態度を加味して総合的に評価する。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科	科目名 保健体育		担当者 森山嵩大・太田浩之
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 後期
[目的・ねらい] さまざまなスポーツ医療の基礎を学ぶことで興味関心を高め、2年次以降の各論の学習に向けての土台にすることを目的とする。			
[内容の概要] 心肺蘇生法、スポーツにおける心理学、スポーツと歯科、スポーツと呼吸、メディカルトレーナーの位置づけ、スポーツ栄養学 等			
[修了時の達成課題（到達目標）] 日赤救急救命基礎講習の修了をはじめ、スポーツに関わる心理、栄養、位置づけ等を正しく理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 急性外傷の応急処置とCPR 2 セルフストレッチング 3 あストレッチング 4 伸縮性テーピング実技 5 伸縮性テーピング実技 6 スポーツ栄養学 7 スポーツ栄養学 8 運動の評価と測定 9 トレーニング基礎…運動器の構造と機能 1 0 トレーニング基礎…トレーニングの原理原則/プログラムの組み方 1 1 トレーニング実技…アジリティトレーニング 1 2 トレーニング実技…ストレングストレーニング 1 3 トレーニング実技…ストレングストレーニング 1 4 トレーニング実技…ストレングストレーニング 1 5 トレーニング実技…競技特性の理解 (注) 講義の進み具合で上記スケジュールに変更があることをご承知ください			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 授業の2/3以上の出席で受験資格を与える。 課題提出と授業態度を総合的に評価し60点以上で単位を与える。	

学科名 柔整学科		科目名 生物学		担当者 吉岡 寛	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 生物に共通する生命現象を学ぶことにより、生物であるヒトを科学的に理解する。また、専門分野の基礎となるような生物学の基礎的知識の修得を目標とする。					
[内容の概要] さまざまな生命現象を科学的に理解するために必要な、生物学の基礎的事項を学習する。また、現代社会を生きる上で重要な知識となる、遺伝子や環境問題について取り上げる。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 生物に共通する現象や、生物としてのヒトの特徴を科学的に理解することにより、現代の生命科学にかかわるさまざまな情報を正しく理解する基本的な素養を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 生物学と生物の性質 2 細胞と組織 3 体を構成する物質 4 代謝とエネルギー 5 遺伝子 6 ヒトの遺伝 7 感覚器 8 神経系と効果器 9 恒常性の維持 10 免疫 11 生殖と発生 12 進化 13 ヒトをとりまく環境 14 動物の行動とヒトの特徴 期末試験 15 試験解説 総まとめ					
[使用テキスト・参考文献] ・ヒトを理解するための生物学(改訂版) 裳華房			[単位認定の方法及び基準] 期末試験で60点以上を合格とする。		

2025年度授業概要

必修

学科名 柔整学科		科目名 コミュニケーション		担当者 田坂 裕一	
種類 (講義・演習・実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[目的・ねらい] 本授業は、これから柔道整復師資格の取得を目指す学生に対し、ケアを必要とする人に適切で質の高い支援を提供する際の基本となる「対人コミュニケーション能力」を習得させることを目的とする。					
[内容の概要] 「講義」により、対人コミュニケーションに関する基礎知識を理解するとともに、「練習・ワーク」により、「話す」、「聴く」、「書く」、「考える」、「協力する」などの豊かなコミュニケーションに必要なスキルと態度を身に付ける。					
[修了時の達成課題(到達目標)] よりよいコミュニケーションのあり方がわかり、ケアワーカーとしてそれを実践しようとする意欲と態度を会得している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 (10月 3日) よりよいコミュニケーションのためにーラポールの形成 2 (10月 10日) ケア・コミュニケーション ① 相手とともに 3 (10月 17日) ケア・コミュニケーション ② ポジティブな表現法 4 (10月 24日) 自己を知るー交流分析 5 (10月 31日) ノンバーバル・コミュニケーション 6 (11月 7日) おもてなしの基本 7 (11月 14日) 敬語を上手に使いこなす 8 (11月 21日) ビジネスマナーを身につける ① 電話対応の基本 9 (11月 28日) ビジネスマナーを身につける ② ビジネスメールの書き方 10 (12月 5日) 苦情対応とカスタマーハラスメント 11 (12月 12日) アンガー・マネジメント 12 (12月 19日) ストレス・マネジメント 13 (1月 9日) アサーティブな話し方・伝え方 14 (1月 16日) これまでの学習のまとめ 期末試験 15 (2月 6日) 期末試験の解説と学びのふりかえり					
[使用テキスト・参考文献] ・使用テキストなし ・適宜プリント配付			[単位認定の方法及び基準] ① 出席状況 ② 授業への姿勢・態度 ③ 授業レポート ④ 期末テスト を評価対象とし、①+②(20%)は観察法により、③(20%)、④(60%)は記述・解答内容を評価する。		

学科名 柔整学科	科目名 国語	担当者 伊達 佳弘
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)
配当学年・時期 1学年 前期 後期		
[目的・ねらい] 一般常識としての国語力の演習授業を通じて、漢字の読み書き・言葉の使い方・身につけておくべき語彙力の向上を目指す。小説の読解授業や意見交換などを通して、自分自身や他人の考え方を互いに尊重し合い、社会人として必要なコミュニケーション能力や表現力を身につける。 [内容の概要] 「国語常識の総演習」を使用して、国語力をつけるための演習と講義を行う。 夏目漱石の小説『ころ』を用い、読解力を深める中で、自他の考えを尊重する態度を養う。 [修了時の達成課題(到達目標)] 演習授業で学んだ国語力を身につけ、実用的に使用することができる。 1000字程度の意見文を書くことができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 第1回 授業の解説とDVD(前編)視聴 第2回 DVD(後編)視聴 第3回 国語常識の演習 第1回AB(CD)・『ころ』の前半のあらすじ 第4回 国語常識の演習 第2回AB(CD)・『ころ』の読解 下 三十六・三十七 第5回 国語常識の演習 第3回AB(CD)・『ころ』の読解 下 三十八・三十九 第6回 国語常識の演習 第4回AB(CD)・『ころ』の読解 下 四十・四十一 第7回 国語常識の演習 第5回AB(CD)・『ころ』の読解 下 四十一・四十二 第8回 国語常識の演習 第6回AB(CD)・『ころ』の読解 下 四十二・四十三 第9回 国語常識の演習 第7回AB(CD)・『ころ』の読解 下 四十三・四十四・四十五 第10回 国語常識の演習 第8回AB(CD)・『ころ』の読解 下 四十五・四十六・四十七 第11回 国語常識の演習 第9回AB(CD)・『ころ』の読解 下 四十七・四十八 第12回 国語常識の演習 第10回AB(CD)・『ころ』の読解 下 四十八・まとめ 第13回 国語常識の演習 第11回AB(CD)・『ころ』まとめ・意見と感想 第14回 国語常識の演習 第12回AB(CD)・『ころ』まとめ テストに向けて 第15回 テストの解説		
[使用テキスト・参考文献] 出版元 啓隆社 「テスト式 国語常識の総演習」修訂三版		[単位認定の方法及び基準] 授業の演習プリント提出状況と確認テスト60点以上で合格とし、単位認定する。

学科名 柔整学科		科目名 栄養学		担当者 津村 なみえ	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 私たちは食物を摂取することによって、生命活動を維持している。この科目では、正しい栄養学の知識を身につけるとともに、私たちの食生活の現状と生涯を通して健康で適切な食生活について学ぶ。					
[内容の概要] 栄養の概念および各栄養素の機能や摂取した食物の消化、吸収、代謝について学ぶ。 それぞれのライフステージの特徴とそれに応じた栄養の特性を学ぶ。 病態と栄養、食事療法の基本的知識について学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 栄養素の基礎的な知識を身につけている。 健康で生き生きと生活するために望ましい食生活を考えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 栄養とは 日本人の食事摂取基準 2 炭水化物／糖質の種類・はたらき 3 脂質／脂質の種類・はたらき 4 たんぱく質／たんぱく質の種類・はたらき・栄養価 5 ビタミン／ビタミンの種類・はたらき 6 ミネラル／ミネラルの種類・はたらき 7 食事バランスガイド 8 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 9 エネルギー代謝 10 ライフステージと栄養／乳児期・幼児期・学童期・成人期 11 ライフステージと栄養／妊娠期・授乳期・高齢期 12 臨床栄養／栄養補給法・循環器疾患 13 臨床栄養／消化器疾患 14 臨床栄養／代謝疾患・腎臓疾患 15 試験解説 健康づくりと食生活					
[使用テキスト・参考文献] 栄養学 人体の構造と機能3 医学書院			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、授業態度、提出物等により総合的に評価する。		

学科名 柔整学科		科目名 情報学		担当者 亀岡 百枝	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ビジネスソフトWordとExcelを使用して、文書作成やデータ管理といった情報活用の技術を身につける。 [内容の概要] (1) コンピュータの基本操作 (2) 文書作成 (3) 表計算とデータ処理 (4) 情報の資料化について、演習形式で学んでいく。 [修了時の達成課題 (到達目標)] コンピュータの基本操作を習得し、ビジネスソフトを目的に応じて適切に使えるようになること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 . ガイダンス／Windows基礎 2 . 日本語入力 3 . Word基本操作 4 . 文字・段落の書式設定 5 . 表の作成 6 . 表の編集 7 . ページ設定 8 . Excel基本操作 9 . セルの書式／印刷 1 0 . 基本関数 1 1 . グラフ作成 1 2 . セルの絶対参照 1 3 . データベース 1 4 . 総合演習 1 5 . PowerPoint基本操作					
[使用テキスト・参考文献] 配布資料あり			[単位認定の方法及び基準] 授業参加度 (2 0) 課題提出 (3 0) 実技テスト (5 0)		

学科名 柔整学科		科目名 解剖学ⅠA		担当者 内田 隆	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい]					
解剖学は人体の構造を理解する学問であり、医療に携わるものとしてもっとも基本的な知識を得る場でもある。人体の様々な構成要素の名称や構造の平面的な記憶にとどまらず、機能との関係も含めて、人体の立体的な構造を理解することが目的である。教科書の文章や表、図などを丸暗記するのではなく、そこから立体的な構造を考え、生理学や生化学等で得た知識と関連付けることにより、臨床現場や日常生活で“役に立つ解剖学”の修得が可能となる。					
[内容の概要]					
解剖学のなかで運動系（骨格系、筋系）を除くすべての領域を扱う。解剖学の目的は人体の立体構造を理解することであるが、まず人体の構成要素を区分し、それぞれについて学ぶ。具体的な項目は、授業の日程と各回のテーマ・内容の欄に記載した。					
各項目の終了時あるいは途中で、理解度の確認のためにミニテストを行う。ミニテスト終了後は復習を兼ねて解説を行い、理解度を高める。ミニテストの成績は、単位認定に反映させる。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
臨床科目の学習に必要な人体の構造を、相互の関係や機能との関連も含めて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1-9：解剖学概説			31-38：循環器系2		
○解剖学総論 ○細胞と組織			○静脈系 ○胎児循環 ○リンパ系		
○人体発生学 ○人体の区分			39-46：中枢神経系		
10-20：内臓系			○神経系総論 ○脳と脊髄		
○内臓学総論 ○消化器系 ○呼吸器系			○伝導路 ○脳の血管系		
○泌尿器系 ○生殖器系			47-54：末梢神経系		
21-23：内分泌系			○脳神経 ○脊髄神経 ○自律神経系		
24-28：循環器系1			55-56：感覚器系		
○循環器系総論 ○心臓			○皮膚 ○視覚器 ○聴覚器		
○動脈系			57-58：体表解剖、画像診断		
29-30：まとめと前期期末試験の解説			59-60：まとめと後期期末試験の解説		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
解剖学（改訂第2版）全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社			・出席 2/3 を必要とする。		
ネッターコンパクト解剖学アトラス（希望者のみ） （相磯貞和 訳）南江堂			・各単元の終わりまたは途中でミニテストを行う。		
			・ミニテストと期末試験の結果を総合し、前期と後期の平均点が 60 点以上を合格とする。		

学科名 柔整学科		科目名 解剖学 I B		担当者 相川 貴裕																																																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期																																																																	
[目的・ねらい] 人体の基本的な構造について理解し、機能や異常について学習するうえで必要な知識を習得する。																																																																					
[内容の概要] 運動系（骨格系・筋系、これに付随する神経系を含む）																																																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 骨格系・筋系について正しく理解している。またその形態と機能について説明できる。																																																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 解剖学総論（用語）</td><td>骨格系総論①</td><td>16 筋系総論</td><td>頭部の筋</td></tr><tr><td>2 骨格系総論②（関節）</td><td>脊柱と椎骨①</td><td>17 頸部の筋</td><td></td></tr><tr><td>3 脊椎と椎骨②</td><td>胸郭①</td><td>18 胸部の筋</td><td>呼吸運動</td></tr><tr><td>4 胸郭②</td><td>上肢骨（肩甲骨・鎖骨）</td><td>19 腹部の筋</td><td></td></tr><tr><td>5 上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨）</td><td></td><td>20 背部の筋</td><td></td></tr><tr><td>6 上肢骨（手根骨・指）</td><td>上肢（関節）</td><td>21 上肢の筋①（上肢帯の筋）</td><td></td></tr><tr><td>7 （中間試験）</td><td></td><td>22 （中間試験）</td><td></td></tr><tr><td>8 下肢骨（寛骨・骨盤）</td><td></td><td>23 上肢の筋②（上腕の筋・前腕の筋）</td><td></td></tr><tr><td>9 下肢骨（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）</td><td></td><td>24 上肢の筋③（前腕の筋・手の筋）</td><td></td></tr><tr><td>10 下肢骨（足根骨・趾）</td><td>下肢（関節）</td><td>25 下肢の筋①（内・外寛骨筋）</td><td></td></tr><tr><td>11 頭蓋骨①</td><td></td><td>26 下肢の筋②（大腿の筋）</td><td></td></tr><tr><td>12 頭蓋骨②</td><td></td><td>27 下肢の筋③（下腿の筋）</td><td></td></tr><tr><td>13 頭蓋骨③</td><td>顎関節</td><td>28 下肢の筋④（下腿の筋・足の筋）</td><td></td></tr><tr><td>14 まとめ</td><td></td><td>29 まとめ</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">（期末試験）</td><td colspan="2">（期末試験）</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td></td><td>30 試験解説</td><td></td></tr></table>						1 解剖学総論（用語）	骨格系総論①	16 筋系総論	頭部の筋	2 骨格系総論②（関節）	脊柱と椎骨①	17 頸部の筋		3 脊椎と椎骨②	胸郭①	18 胸部の筋	呼吸運動	4 胸郭②	上肢骨（肩甲骨・鎖骨）	19 腹部の筋		5 上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨）		20 背部の筋		6 上肢骨（手根骨・指）	上肢（関節）	21 上肢の筋①（上肢帯の筋）		7 （中間試験）		22 （中間試験）		8 下肢骨（寛骨・骨盤）		23 上肢の筋②（上腕の筋・前腕の筋）		9 下肢骨（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）		24 上肢の筋③（前腕の筋・手の筋）		10 下肢骨（足根骨・趾）	下肢（関節）	25 下肢の筋①（内・外寛骨筋）		11 頭蓋骨①		26 下肢の筋②（大腿の筋）		12 頭蓋骨②		27 下肢の筋③（下腿の筋）		13 頭蓋骨③	顎関節	28 下肢の筋④（下腿の筋・足の筋）		14 まとめ		29 まとめ		（期末試験）		（期末試験）		15 試験解説		30 試験解説	
1 解剖学総論（用語）	骨格系総論①	16 筋系総論	頭部の筋																																																																		
2 骨格系総論②（関節）	脊柱と椎骨①	17 頸部の筋																																																																			
3 脊椎と椎骨②	胸郭①	18 胸部の筋	呼吸運動																																																																		
4 胸郭②	上肢骨（肩甲骨・鎖骨）	19 腹部の筋																																																																			
5 上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨）		20 背部の筋																																																																			
6 上肢骨（手根骨・指）	上肢（関節）	21 上肢の筋①（上肢帯の筋）																																																																			
7 （中間試験）		22 （中間試験）																																																																			
8 下肢骨（寛骨・骨盤）		23 上肢の筋②（上腕の筋・前腕の筋）																																																																			
9 下肢骨（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）		24 上肢の筋③（前腕の筋・手の筋）																																																																			
10 下肢骨（足根骨・趾）	下肢（関節）	25 下肢の筋①（内・外寛骨筋）																																																																			
11 頭蓋骨①		26 下肢の筋②（大腿の筋）																																																																			
12 頭蓋骨②		27 下肢の筋③（下腿の筋）																																																																			
13 頭蓋骨③	顎関節	28 下肢の筋④（下腿の筋・足の筋）																																																																			
14 まとめ		29 まとめ																																																																			
（期末試験）		（期末試験）																																																																			
15 試験解説		30 試験解説																																																																			
[使用テキスト・参考文献] 解剖学 改訂第2版 （全国柔道整復学校協会監修、医歯薬出版）			[単位認定の方法及び基準] ・ 出席 2 / 3 以上を必要とする。 ・ 授業内に小テストを行う。 ・ 定期試験と小テストの結果を総合し、前期と後期の平均 6 0 点以上を合格とする。																																																																		

学科名 柔整学科		科目名 解剖学Ⅱ		担当者 内田 隆																															
種類 （ <u>講義</u> ・演習・実習）		回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）		配当学年・時期 3学年 <u>前期</u> <u>後期</u>																														
[目的・ねらい] 1年次に履修した解剖学の基礎的知識を再確認し、応用できるよう理解を深める。復習を重ねて苦手な事項を無くすと共に、断片的な知識ではなく、応用できるよう体系化した知識を習得する。国家試験に対応できるよう、解剖学的知識を基に推論する能力を養う。																																			
[内容の概要] 過去の国家試験の問題や改変した問題を解くことにより、各自の持っている基礎知識を再確認し、曖昧な知識について再学習する。さらに、出題の意図や関連する解剖学的事項について理解を深める。																																			
[修了時の達成課題（到達目標）] 人体の構造について、相互の関係や機能との関連も含めて説明できる。																																			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 解剖学総論 1</td><td>16 内分泌系</td></tr><tr><td>2 解剖学総論 2、神経系総論、脳 1</td><td>17 循環器系総論</td></tr><tr><td>3 脳 2、脊髄</td><td>18 心臓</td></tr><tr><td>4 伝導路、脳神経</td><td>19 動脈系 1</td></tr><tr><td>5 脊髄神経</td><td>20 動脈系 2、胎児循環</td></tr><tr><td>6 自律神経、筋の神経支配 1</td><td>21 静脈系、リンパ系</td></tr><tr><td>7 筋の神経支配 2、感覚器系 1</td><td>22 骨学総論、脊柱</td></tr><tr><td>8 学習成果確認試験</td><td>23 胸郭、上肢の骨と関節</td></tr><tr><td>9 学習成果確認試験解説</td><td>24 下肢の骨と関節</td></tr><tr><td>10 感覚器系 2、消化器系 1</td><td>25 頭の骨、顎関節</td></tr><tr><td>11 消化器系 2</td><td>26 筋系総論、頭部</td></tr><tr><td>12 呼吸器系</td><td>27 頸部・背部の筋</td></tr><tr><td>13 泌尿器系</td><td>28 上肢の筋、腹部の筋</td></tr><tr><td>14 生殖器系、 前期期末試験</td><td>29 下肢の筋、体表解剖 後期期末試験</td></tr><tr><td>15 前期期末試験解説</td><td>30 後期期末試験解説</td></tr></table>						1 解剖学総論 1	16 内分泌系	2 解剖学総論 2、神経系総論、脳 1	17 循環器系総論	3 脳 2、脊髄	18 心臓	4 伝導路、脳神経	19 動脈系 1	5 脊髄神経	20 動脈系 2、胎児循環	6 自律神経、筋の神経支配 1	21 静脈系、リンパ系	7 筋の神経支配 2、感覚器系 1	22 骨学総論、脊柱	8 学習成果確認試験	23 胸郭、上肢の骨と関節	9 学習成果確認試験解説	24 下肢の骨と関節	10 感覚器系 2、消化器系 1	25 頭の骨、顎関節	11 消化器系 2	26 筋系総論、頭部	12 呼吸器系	27 頸部・背部の筋	13 泌尿器系	28 上肢の筋、腹部の筋	14 生殖器系、 前期期末試験	29 下肢の筋、体表解剖 後期期末試験	15 前期期末試験解説	30 後期期末試験解説
1 解剖学総論 1	16 内分泌系																																		
2 解剖学総論 2、神経系総論、脳 1	17 循環器系総論																																		
3 脳 2、脊髄	18 心臓																																		
4 伝導路、脳神経	19 動脈系 1																																		
5 脊髄神経	20 動脈系 2、胎児循環																																		
6 自律神経、筋の神経支配 1	21 静脈系、リンパ系																																		
7 筋の神経支配 2、感覚器系 1	22 骨学総論、脊柱																																		
8 学習成果確認試験	23 胸郭、上肢の骨と関節																																		
9 学習成果確認試験解説	24 下肢の骨と関節																																		
10 感覚器系 2、消化器系 1	25 頭の骨、顎関節																																		
11 消化器系 2	26 筋系総論、頭部																																		
12 呼吸器系	27 頸部・背部の筋																																		
13 泌尿器系	28 上肢の筋、腹部の筋																																		
14 生殖器系、 前期期末試験	29 下肢の筋、体表解剖 後期期末試験																																		
15 前期期末試験解説	30 後期期末試験解説																																		
[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 解剖学 南江堂			[単位認定の方法及び基準] ・出席 2/3 を必要とする。 ・前期は期末試験の結果に学習成果確認試験の成績も加味して評価する。 ・前期の評価と後期の期末試験の結果を総合し、合計 120 点以上（平均 60 点以上）を合格とする。																																

学科名 柔整学科		科目名 生理学Ⅰ		担当者 今井 康夫																																																					
種類 (講義・演習・実習)		回数 60回	時間数(単位数) 120時間(4単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期																																																					
【目的・ねらい】 生理学は、文字通り「生きる理くつ」を考える学問であり、解剖学とも関連づけながら、精密な人体の仕組みを総合的に理解することを目標とする。 【内容の概要】 生命活動の基礎となる核酸、タンパク質の性質や、栄養素の吸収・代謝、さらに、種々の細胞、器官、情報伝達機構などの働きにより、どのように生体の恒常性が保たれ、生命が維持されているかを理解する。柔整学科において生理学の扱う範囲は、医学部等の「生理学」教科書で扱われている範囲に加え、「生化学」「免疫学」「神経科学」等の分野をも含んでいる。さらにスポーツや成長・加齢に関わる生理学的変化についても基礎的な事項を学ぶ。 【修了時の達成課題（到達目標）】 人体の諸臓器の機能を説明できる。一般臨床医学等、他科目にも共通する生理学の用語の意味や生体物質の役割を理解し、説明できる。																																																									
【授業の日程と各回のテーマ・内容】 <table><tr><td colspan="2">＜前期＞</td><td colspan="2">＜後期＞</td></tr><tr><td>1～3</td><td>生理学とは</td><td>31</td><td>骨（つづき）</td></tr><tr><td>4～5</td><td>筋</td><td>32～35</td><td>循環</td></tr><tr><td>6～9</td><td>神経</td><td>36～37</td><td>呼吸</td></tr><tr><td>10～11</td><td>運動</td><td>38～41</td><td>尿</td></tr><tr><td>12～14</td><td>まとめ・中間試験・試験解説</td><td>42～44</td><td>まとめ・中間試験・試験解説</td></tr><tr><td>15～17</td><td>感覚</td><td>45～50</td><td>栄養と代謝</td></tr><tr><td>18～21</td><td>内分泌</td><td>51～53</td><td>消化と吸収</td></tr><tr><td>22～23</td><td>生殖</td><td>54</td><td>体温</td></tr><tr><td>24～27</td><td>血液</td><td>55～56</td><td>高齢者の生理学的特徴・変化</td></tr><tr><td>28～29</td><td>まとめ・期末試験・試験解説</td><td>57～58</td><td>発達と発育および競技者の生理学的特徴</td></tr><tr><td>30</td><td>骨</td><td></td><td>・変化</td></tr><tr><td></td><td></td><td>59～60</td><td>まとめ・期末試験・試験解説</td></tr></table>						＜前期＞		＜後期＞		1～3	生理学とは	31	骨（つづき）	4～5	筋	32～35	循環	6～9	神経	36～37	呼吸	10～11	運動	38～41	尿	12～14	まとめ・中間試験・試験解説	42～44	まとめ・中間試験・試験解説	15～17	感覚	45～50	栄養と代謝	18～21	内分泌	51～53	消化と吸収	22～23	生殖	54	体温	24～27	血液	55～56	高齢者の生理学的特徴・変化	28～29	まとめ・期末試験・試験解説	57～58	発達と発育および競技者の生理学的特徴	30	骨		・変化			59～60	まとめ・期末試験・試験解説
＜前期＞		＜後期＞																																																							
1～3	生理学とは	31	骨（つづき）																																																						
4～5	筋	32～35	循環																																																						
6～9	神経	36～37	呼吸																																																						
10～11	運動	38～41	尿																																																						
12～14	まとめ・中間試験・試験解説	42～44	まとめ・中間試験・試験解説																																																						
15～17	感覚	45～50	栄養と代謝																																																						
18～21	内分泌	51～53	消化と吸収																																																						
22～23	生殖	54	体温																																																						
24～27	血液	55～56	高齢者の生理学的特徴・変化																																																						
28～29	まとめ・期末試験・試験解説	57～58	発達と発育および競技者の生理学的特徴																																																						
30	骨		・変化																																																						
		59～60	まとめ・期末試験・試験解説																																																						
[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版 彼末一之 編 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席は前期、後期それぞれ2/3を必要とする。 前期、後期それぞれ中間試験および期末試験を行い、計4回の試験成績を合算して評価する。																																																						

学科名 柔整学科		科目名 生理学Ⅱ		担当者 相川 貴裕																																	
種類 (講義・演習・実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 3学年 前期 後期																																	
[目的・ねらい] 1年次で学習した生理学を復習し、知識を統合し、応用力を身につける。 [内容の概要] 国家試験過去問題・類似問題の演習、小テスト、ポイント解説等を行う。 [修了時の達成課題(到達目標)] 国家試験必修問題レベルの問題を確実に正解できること。同じく一般問題レベルの問題で、全員が正解率60%を達成できる、安定した実力を身につけること。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 体液</td><td>16 血液・循環(1)</td></tr><tr><td>2 神経の基本的機能</td><td>17 血液・循環(2)</td></tr><tr><td>3 神経系の機能(1)</td><td>18 呼吸</td></tr><tr><td>4 神経系の機能(2)</td><td>19 尿(1)</td></tr><tr><td>5 神経系の機能(3)</td><td>20 尿(2)</td></tr><tr><td>6 復習</td><td>21 内分泌(1)</td></tr><tr><td>7 前期中間試験・まとめ</td><td>22 内分泌(2)</td></tr><tr><td>8 試験解説, 感覚(1)</td><td>23 生殖</td></tr><tr><td>9 感覚(2)</td><td>24 骨・筋</td></tr><tr><td>10 消化・吸収(1)</td><td>25 後期の復習</td></tr><tr><td>11 消化・吸収(2)</td><td>26 総合復習(1)</td></tr><tr><td>12 代謝(1)</td><td>27 総合復習(2)</td></tr><tr><td>13 代謝(2)</td><td>28 総合復習(3)</td></tr><tr><td>14 復習</td><td>29 まとめ</td></tr><tr><td>前期期末試験・まとめ</td><td>後期期末試験</td></tr><tr><td>15 試験解説, 体温</td><td>30 試験解説, 総合復習(4)</td></tr></table>						1 体液	16 血液・循環(1)	2 神経の基本的機能	17 血液・循環(2)	3 神経系の機能(1)	18 呼吸	4 神経系の機能(2)	19 尿(1)	5 神経系の機能(3)	20 尿(2)	6 復習	21 内分泌(1)	7 前期中間試験・まとめ	22 内分泌(2)	8 試験解説, 感覚(1)	23 生殖	9 感覚(2)	24 骨・筋	10 消化・吸収(1)	25 後期の復習	11 消化・吸収(2)	26 総合復習(1)	12 代謝(1)	27 総合復習(2)	13 代謝(2)	28 総合復習(3)	14 復習	29 まとめ	前期期末試験・まとめ	後期期末試験	15 試験解説, 体温	30 試験解説, 総合復習(4)
1 体液	16 血液・循環(1)																																				
2 神経の基本的機能	17 血液・循環(2)																																				
3 神経系の機能(1)	18 呼吸																																				
4 神経系の機能(2)	19 尿(1)																																				
5 神経系の機能(3)	20 尿(2)																																				
6 復習	21 内分泌(1)																																				
7 前期中間試験・まとめ	22 内分泌(2)																																				
8 試験解説, 感覚(1)	23 生殖																																				
9 感覚(2)	24 骨・筋																																				
10 消化・吸収(1)	25 後期の復習																																				
11 消化・吸収(2)	26 総合復習(1)																																				
12 代謝(1)	27 総合復習(2)																																				
13 代謝(2)	28 総合復習(3)																																				
14 復習	29 まとめ																																				
前期期末試験・まとめ	後期期末試験																																				
15 試験解説, 体温	30 試験解説, 総合復習(4)																																				
[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版 彼末一之 編 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席2/3を必要とする。 前期中間試験, 前期期末試験, 後期中間試験, 後期期末試験の計4回の筆記試験の評価を合算して評価する。																																		

学科名 柔整学科		科目名 運動学		担当者 友末 亮三																																																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 3 学年 前期 後期																																																																
[目的・ねらい] からだのしくみと働きを学び、スポーツ・身体運動が心身に及ぼす効果・影響を理解する。 運動やスポーツに対する科学的な見方を総合的に修得する。																																																																					
[内容の概要] 私たちが運動をしているとき、からだの中ではどのようなことが起こっているのか。 その力学的・生理学的・解剖学的メカニズムを分かりやすく解説する。																																																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 運動時に体内ではどのような変化が起きているか、力学的・生理学的観点から説明できる。 運動とその改善に脳・神経系が大きな役割を果たしていることが理解できる。 日常の健康増進のための理論が理解できる。																																																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>16</td><td>股関節の運動</td></tr><tr><td>2</td><td>運動の表わし方</td><td>17</td><td>膝関節の運動</td></tr><tr><td>3</td><td>ヒトの身体の動き</td><td>18</td><td>足関節と足の運動</td></tr><tr><td>4</td><td>関節のてこ作用</td><td>19</td><td>体幹と脊柱の運動</td></tr><tr><td>5</td><td>運動の法則</td><td>20</td><td>頸椎の運動</td></tr><tr><td>6</td><td>二軸動作と自然体</td><td>21</td><td>胸椎と胸郭の運動</td></tr><tr><td>7</td><td>関節の構造と機能</td><td>22</td><td>腰椎・仙椎および骨盤の運動</td></tr><tr><td>8</td><td>骨格筋の構造と機能</td><td>23</td><td>顔面および頭部の運動</td></tr><tr><td>9</td><td>神経の構造と機能</td><td>24</td><td>歩行の運動学的分析</td></tr><tr><td>10</td><td>運動感覚</td><td>25</td><td>異常歩行</td></tr><tr><td>11</td><td>反射と随意運動</td><td>26</td><td>姿勢</td></tr><tr><td>12</td><td>上肢体の運動</td><td>27</td><td>運動発達</td></tr><tr><td>13</td><td>肩関節の運動</td><td>28</td><td>運動学習</td></tr><tr><td>14</td><td>肘関節と前腕の運動</td><td>29</td><td>最近のトピックスの紹介</td></tr><tr><td colspan="2">前期末試験</td><td colspan="2">後期末試験</td></tr><tr><td>15</td><td>手関節と手の運動</td><td>30</td><td>心身の相関性・まとめ</td></tr></table>						1	オリエンテーション	16	股関節の運動	2	運動の表わし方	17	膝関節の運動	3	ヒトの身体の動き	18	足関節と足の運動	4	関節のてこ作用	19	体幹と脊柱の運動	5	運動の法則	20	頸椎の運動	6	二軸動作と自然体	21	胸椎と胸郭の運動	7	関節の構造と機能	22	腰椎・仙椎および骨盤の運動	8	骨格筋の構造と機能	23	顔面および頭部の運動	9	神経の構造と機能	24	歩行の運動学的分析	10	運動感覚	25	異常歩行	11	反射と随意運動	26	姿勢	12	上肢体の運動	27	運動発達	13	肩関節の運動	28	運動学習	14	肘関節と前腕の運動	29	最近のトピックスの紹介	前期末試験		後期末試験		15	手関節と手の運動	30	心身の相関性・まとめ
1	オリエンテーション	16	股関節の運動																																																																		
2	運動の表わし方	17	膝関節の運動																																																																		
3	ヒトの身体の動き	18	足関節と足の運動																																																																		
4	関節のてこ作用	19	体幹と脊柱の運動																																																																		
5	運動の法則	20	頸椎の運動																																																																		
6	二軸動作と自然体	21	胸椎と胸郭の運動																																																																		
7	関節の構造と機能	22	腰椎・仙椎および骨盤の運動																																																																		
8	骨格筋の構造と機能	23	顔面および頭部の運動																																																																		
9	神経の構造と機能	24	歩行の運動学的分析																																																																		
10	運動感覚	25	異常歩行																																																																		
11	反射と随意運動	26	姿勢																																																																		
12	上肢体の運動	27	運動発達																																																																		
13	肩関節の運動	28	運動学習																																																																		
14	肘関節と前腕の運動	29	最近のトピックスの紹介																																																																		
前期末試験		後期末試験																																																																			
15	手関節と手の運動	30	心身の相関性・まとめ																																																																		
[使用テキスト・参考文献] ・運動学 齋藤宏他著 医歯薬出版 ・積極的マイナス思考のすすめ 友末亮三著 スキージャーナル			[単位認定の方法及び基準] 期末試験 X、ミニレポート Y、授業中の態度 Z により評価する。評点算出式は次の通り。 $X \times 0.8 + Y \times 0.1 + Z \times 0.1$ X、Y、Z は 100 点満点。																																																																		

学科名 柔整学科		科目名 病理学概論Ⅰ		担当者 今井 康夫																					
種類 (講義・演習・実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期																				
【目的・ねらい】 病理学は生理学と表裏の関係にあり、体の正常でない状態についての学問である。種々の疾患について原因、メカニズム、症状や経過等について学ぶことにより、柔道整復師の業務に関連する知識を得ることを目標とする。																									
【内容の概要】 科目名に「概論」とあるように、病理学の基礎に加え、柔道整復師が知っておくべき事項に重点化した内容となっている。種々の疾患をはじめ、加齢やスポーツ障害等に伴う器官の形態や機能の変化、疾患の分類、名称、原因、メカニズム、症候などについて学習する。																									
【修了時の達成課題（到達目標）】 体の正常でない状態を細胞傷害（退行性病変、代謝異常）、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常、腫瘍、先天性異常などに分類し、それぞれの分類に属する主な疾患について説明することができる。																									
【授業の日程と各回のテーマ・内容】 <table><tr><td>1 序論</td><td>16～18 免疫・アレルギー</td></tr><tr><td>2 疾病一般</td><td>19～20 腫瘍</td></tr><tr><td>3～4 細胞障害</td><td>21 復習</td></tr><tr><td>5～6 循環障害</td><td>22 中間試験と解説</td></tr><tr><td>7 復習</td><td>23～24 先天性異常</td></tr><tr><td>8 中間試験と解説</td><td>25～27 病因</td></tr><tr><td>9～10 進行性病変</td><td>28 運動器</td></tr><tr><td>11～13 炎症</td><td>29 復習</td></tr><tr><td>14 復習</td><td>30 試験解説</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td></td></tr></table>						1 序論	16～18 免疫・アレルギー	2 疾病一般	19～20 腫瘍	3～4 細胞障害	21 復習	5～6 循環障害	22 中間試験と解説	7 復習	23～24 先天性異常	8 中間試験と解説	25～27 病因	9～10 進行性病変	28 運動器	11～13 炎症	29 復習	14 復習	30 試験解説	15 試験解説	
1 序論	16～18 免疫・アレルギー																								
2 疾病一般	19～20 腫瘍																								
3～4 細胞障害	21 復習																								
5～6 循環障害	22 中間試験と解説																								
7 復習	23～24 先天性異常																								
8 中間試験と解説	25～27 病因																								
9～10 進行性病変	28 運動器																								
11～13 炎症	29 復習																								
14 復習	30 試験解説																								
15 試験解説																									
[使用テキスト・参考文献] 病理学概論（全国柔道整復学校協会監修、関根一郎著）第3版 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 前・後期それぞれ中間試験，期末試験を行い，計4回の筆記試験の点数を合算して評価する。																						

学科名 柔整学科	科目名 病理学概論Ⅱ		担当者 相川 貴裕
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 3学年 前期 後期
[目的・ねらい] 2年次で学習した病理学を復習し、知識を統合し、応用力を身につける。			
[内容の概要] 国家試験過去問題・類似問題の演習、小テスト、ポイント解説等を行う。			
[修了時の達成課題(到達目標)] 国家試験必修問題レベルの問題を確実に正解できること。同じく一般問題レベルの問題で、全員が正解率60%を達成できること。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 病理学の方法・疾病一般・ 2 細胞障害 3 循環障害 4 進行性病変 5 炎症 6 復習 7 中間試験と解説 8 免疫・アレルギー 9 腫瘍 10 先天性異常 11 病因 12 運動器 13 復習 14 復習 15 試験解説			
[使用テキスト・参考文献] 病理学概論(全国柔道整復学校協会監修、関根一郎著)第3版 医歯薬出版		[単位認定の方法及び基準] 中間試験と期末試験(いずれも筆記試験)の成績を合算して評価する。	

2025年度授業概要

必修

学科名 柔整学科		科目名 一般臨床医学		担当者 秋田 博孝																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] 疾患各論を学びながら、相当する器官の生理、解剖、また、器官相互および、疾患相互の関連の理解を深める。																																					
[内容の概要] 診察概論、診察各論、検査法、主要な疾患																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 診断にいたるアプローチ、疾患の特徴を知り、適切な判断能力を持つ																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 診察概論、各論（医療面接・視診）</td><td>16 血液・造血器疾患</td></tr><tr><td>2 診察各論（打診～検査）</td><td>17 血液・造血器疾患</td></tr><tr><td>3 診察各論（代表的な臨床症状）</td><td>18 腎・尿路疾患</td></tr><tr><td>4 検査法</td><td>19 腎・尿路疾患</td></tr><tr><td>5 呼吸器疾患</td><td>20 神経疾患</td></tr><tr><td>6 呼吸器疾患</td><td>21 神経疾患</td></tr><tr><td>7 循環器疾患</td><td>22 感染症</td></tr><tr><td>8 循環器疾患</td><td>23 感染症</td></tr><tr><td>9 消化器疾患</td><td>24 各疾患</td></tr><tr><td>10 消化器疾患</td><td>25 各疾患</td></tr><tr><td>11 内分泌疾患</td><td>26 リウマチ・膠原病</td></tr><tr><td>12 消化器系疾患</td><td>27 リウマチ・膠原病</td></tr><tr><td>13 消化器系疾患</td><td>28 アレルギー</td></tr><tr><td>14 まとめ</td><td>29 環境要因による疾患</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>						1 診察概論、各論（医療面接・視診）	16 血液・造血器疾患	2 診察各論（打診～検査）	17 血液・造血器疾患	3 診察各論（代表的な臨床症状）	18 腎・尿路疾患	4 検査法	19 腎・尿路疾患	5 呼吸器疾患	20 神経疾患	6 呼吸器疾患	21 神経疾患	7 循環器疾患	22 感染症	8 循環器疾患	23 感染症	9 消化器疾患	24 各疾患	10 消化器疾患	25 各疾患	11 内分泌疾患	26 リウマチ・膠原病	12 消化器系疾患	27 リウマチ・膠原病	13 消化器系疾患	28 アレルギー	14 まとめ	29 環境要因による疾患	前期末試験	後期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 診察概論、各論（医療面接・視診）	16 血液・造血器疾患																																				
2 診察各論（打診～検査）	17 血液・造血器疾患																																				
3 診察各論（代表的な臨床症状）	18 腎・尿路疾患																																				
4 検査法	19 腎・尿路疾患																																				
5 呼吸器疾患	20 神経疾患																																				
6 呼吸器疾患	21 神経疾患																																				
7 循環器疾患	22 感染症																																				
8 循環器疾患	23 感染症																																				
9 消化器疾患	24 各疾患																																				
10 消化器疾患	25 各疾患																																				
11 内分泌疾患	26 リウマチ・膠原病																																				
12 消化器系疾患	27 リウマチ・膠原病																																				
13 消化器系疾患	28 アレルギー																																				
14 まとめ	29 環境要因による疾患																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15 試験解説	30 試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 一般臨床医学 改訂第3版／医歯薬出版株式会社			[単位認定の方法及び基準] 2/3 以上の出席を必要とする。 前期末試験および後期末試験を合わせて 120 点以上（平均 60 点）の者に単位を与える。																																		

学科名 柔整学科		科目名 外科学概論		担当者 秋田 博孝																																																																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期																																																																																
[目的・ねらい] 柔道整復師養成の一環において、西洋医学とりわけ臨床外科学の知識を涵養する。専門職能を有する医療従事者として必要とされる医学的リテラシーの修得を目的とする。																																																																																					
[内容の概要] 柔道整復学科ガイドラインに沿った外科学の基礎および日常の臨床現場に遭遇することの多い外科疾患について解説する。																																																																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 柔道整復師に必要とされる医学的専門用語の修得と疾病の病因、病理、診断、治療についての理解と修得により、外科学分野の国家試験合格レベルに到達することを目標とする。																																																																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>総論 外科学とは（現代の外科と柔整）</td><td>16</td><td>(11)</td><td>心肺蘇生法</td></tr><tr><td>2</td><td>(1) 損傷①</td><td>17</td><td>(12)</td><td>脳神経外科疾患①</td></tr><tr><td>3</td><td>損傷②</td><td>18</td><td></td><td>脳神経外科疾患②</td></tr><tr><td>4</td><td>(2) 炎症と外科感染症①</td><td>19</td><td></td><td>脳神経外科疾患③</td></tr><tr><td>5</td><td>炎症と外科感染症②</td><td>20</td><td>(13)</td><td>甲状腺・頸部疾患</td></tr><tr><td>6</td><td>(3) 腫瘍①</td><td>21</td><td>(14)</td><td>胸壁・呼吸疾患①</td></tr><tr><td>7</td><td>腫瘍②</td><td>22</td><td></td><td>胸壁・呼吸疾患②</td></tr><tr><td>8</td><td>(4) ショック</td><td>23</td><td></td><td>胸壁・呼吸疾患③</td></tr><tr><td>9</td><td>(5) 輸血</td><td>24</td><td>(15)</td><td>心・脈管疾患①</td></tr><tr><td>10</td><td>(6) 消毒と滅菌</td><td>25</td><td></td><td>心・脈管疾患②</td></tr><tr><td>11</td><td>(7) 手術</td><td>26</td><td>(16)</td><td>乳腺疾患</td></tr><tr><td>12</td><td>(8) 麻酔</td><td>27</td><td>(17)</td><td>腹部外科疾患①</td></tr><tr><td>13</td><td>(9) 移植と免疫</td><td>28</td><td></td><td>腹部外科疾患②</td></tr><tr><td>14</td><td>(10) 出血と止血</td><td>29</td><td></td><td>腹部外科疾患③</td></tr><tr><td></td><td>前期末試験</td><td></td><td></td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15</td><td>試験解説</td><td>30</td><td></td><td>試験解説</td></tr></table>						1	総論 外科学とは（現代の外科と柔整）	16	(11)	心肺蘇生法	2	(1) 損傷①	17	(12)	脳神経外科疾患①	3	損傷②	18		脳神経外科疾患②	4	(2) 炎症と外科感染症①	19		脳神経外科疾患③	5	炎症と外科感染症②	20	(13)	甲状腺・頸部疾患	6	(3) 腫瘍①	21	(14)	胸壁・呼吸疾患①	7	腫瘍②	22		胸壁・呼吸疾患②	8	(4) ショック	23		胸壁・呼吸疾患③	9	(5) 輸血	24	(15)	心・脈管疾患①	10	(6) 消毒と滅菌	25		心・脈管疾患②	11	(7) 手術	26	(16)	乳腺疾患	12	(8) 麻酔	27	(17)	腹部外科疾患①	13	(9) 移植と免疫	28		腹部外科疾患②	14	(10) 出血と止血	29		腹部外科疾患③		前期末試験			後期末試験	15	試験解説	30		試験解説
1	総論 外科学とは（現代の外科と柔整）	16	(11)	心肺蘇生法																																																																																	
2	(1) 損傷①	17	(12)	脳神経外科疾患①																																																																																	
3	損傷②	18		脳神経外科疾患②																																																																																	
4	(2) 炎症と外科感染症①	19		脳神経外科疾患③																																																																																	
5	炎症と外科感染症②	20	(13)	甲状腺・頸部疾患																																																																																	
6	(3) 腫瘍①	21	(14)	胸壁・呼吸疾患①																																																																																	
7	腫瘍②	22		胸壁・呼吸疾患②																																																																																	
8	(4) ショック	23		胸壁・呼吸疾患③																																																																																	
9	(5) 輸血	24	(15)	心・脈管疾患①																																																																																	
10	(6) 消毒と滅菌	25		心・脈管疾患②																																																																																	
11	(7) 手術	26	(16)	乳腺疾患																																																																																	
12	(8) 麻酔	27	(17)	腹部外科疾患①																																																																																	
13	(9) 移植と免疫	28		腹部外科疾患②																																																																																	
14	(10) 出血と止血	29		腹部外科疾患③																																																																																	
	前期末試験			後期末試験																																																																																	
15	試験解説	30		試験解説																																																																																	
[使用テキスト・参考文献] 『外科学概論』公益法人 全国柔道整復学校協会 監修・炭山嘉信編 2013年第4版 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席 2/3 以上を必要とする。 前・後期末試験で平均 60 点以上の者に単位を与える。																																																																																		

学科名 柔整学科		科目名 整形外科科学		担当者 渡邊 浩志																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 3学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] 整形外科に対する理解を深める事を目標に、人体構造を整形外科的観点から学ぶ。 臨床医学は患者という人間を対象としている点を踏まえ、各分野の主要疾患について学び、治療法等について理解を深める。																																					
[内容の概要] 本講義では、多種の整形外科疾患に対応するための骨・軟骨などの筋骨格系基礎理論とともに、様々な疾患を学習する。																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 整形外科科学的な一般知識を習得し、柔道整復師としての知識向上に役立てる。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 整形外科検査法</td><td>16 身体部位別各論（肩甲帯）</td></tr><tr><td>2 整形外科的治療法(手術)</td><td>17 身体部位別各論（上腕）</td></tr><tr><td>3 整形外科的治療法(ギプスの巻き方)</td><td>18 身体部位別各論（肘関節）</td></tr><tr><td>4 骨・関節損傷総論(骨折総論、関節の損傷)</td><td>19 身体部位別各論（前腕）</td></tr><tr><td>5 骨・関節損傷総論(リハビリ総論)</td><td>20 身体部位別各論（手関節）</td></tr><tr><td>6 疾患別各論(感染性疾患、骨腫瘍)</td><td>21 身体部位別各論（手・手指）</td></tr><tr><td>7 疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)</td><td>22 身体部位別各論（骨盤）</td></tr><tr><td>8 疾患別各論(全身性骨・軟部疾患)</td><td>23 身体部位別各論（股関節）</td></tr><tr><td>9 疾患別各論(骨端症)</td><td>24 身体部位別各論（大腿骨）</td></tr><tr><td>10 疾患別各論(四肢循環障害)</td><td>25 身体部位別各論（膝関節）</td></tr><tr><td>11 身体部位別各論（頸部）</td><td>26 身体部位別各論（大腿骨、膝関節の手術）</td></tr><tr><td>12 身体部位別各論（胸部）</td><td>27 身体部位別各論（下腿）</td></tr><tr><td>13 身体部位別各論（腰部）</td><td>28 身体部位別各論（足関節）</td></tr><tr><td>14 身体部位別各論（肩）</td><td>29 身体部位別各論（足・足趾）</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>						1 整形外科検査法	16 身体部位別各論（肩甲帯）	2 整形外科的治療法(手術)	17 身体部位別各論（上腕）	3 整形外科的治療法(ギプスの巻き方)	18 身体部位別各論（肘関節）	4 骨・関節損傷総論(骨折総論、関節の損傷)	19 身体部位別各論（前腕）	5 骨・関節損傷総論(リハビリ総論)	20 身体部位別各論（手関節）	6 疾患別各論(感染性疾患、骨腫瘍)	21 身体部位別各論（手・手指）	7 疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)	22 身体部位別各論（骨盤）	8 疾患別各論(全身性骨・軟部疾患)	23 身体部位別各論（股関節）	9 疾患別各論(骨端症)	24 身体部位別各論（大腿骨）	10 疾患別各論(四肢循環障害)	25 身体部位別各論（膝関節）	11 身体部位別各論（頸部）	26 身体部位別各論（大腿骨、膝関節の手術）	12 身体部位別各論（胸部）	27 身体部位別各論（下腿）	13 身体部位別各論（腰部）	28 身体部位別各論（足関節）	14 身体部位別各論（肩）	29 身体部位別各論（足・足趾）	前期末試験	後期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 整形外科検査法	16 身体部位別各論（肩甲帯）																																				
2 整形外科的治療法(手術)	17 身体部位別各論（上腕）																																				
3 整形外科的治療法(ギプスの巻き方)	18 身体部位別各論（肘関節）																																				
4 骨・関節損傷総論(骨折総論、関節の損傷)	19 身体部位別各論（前腕）																																				
5 骨・関節損傷総論(リハビリ総論)	20 身体部位別各論（手関節）																																				
6 疾患別各論(感染性疾患、骨腫瘍)	21 身体部位別各論（手・手指）																																				
7 疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)	22 身体部位別各論（骨盤）																																				
8 疾患別各論(全身性骨・軟部疾患)	23 身体部位別各論（股関節）																																				
9 疾患別各論(骨端症)	24 身体部位別各論（大腿骨）																																				
10 疾患別各論(四肢循環障害)	25 身体部位別各論（膝関節）																																				
11 身体部位別各論（頸部）	26 身体部位別各論（大腿骨、膝関節の手術）																																				
12 身体部位別各論（胸部）	27 身体部位別各論（下腿）																																				
13 身体部位別各論（腰部）	28 身体部位別各論（足関節）																																				
14 身体部位別各論（肩）	29 身体部位別各論（足・足趾）																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15 試験解説	30 試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 整形外科科学 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 前期・後期期末験を行い、平均 60 点以上のものを合格とする。																																		

学科名 柔整学科		科目名 リハビリテーション医学		担当者 徳森 公彦																																																																	
種類 (講義・演習・実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)		配当学年・時期 2学年前期後期																																																																
[目的・ねらい] リハビリテーションの概念と基本的な疾患別リハビリテーションについて理解する																																																																					
[内容の概要] リハビリテーションの概念、ICFについて。検査と測定に関する基本知識。中枢神経疾患・骨関節疾患 呼吸・循環障害の基本的な理学療法。義肢装具に関する基本的な知識に関する講義を行う。																																																																					
[修了時の達成課題(到達目標)] ICIDHとICFの違い、メジャーな疾患に対する基本的なリハビリテーションが説明できる。																																																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>リハビリテーションの概念と歴史</td><td>16</td><td>作業療法</td></tr><tr><td>2</td><td>障害とリハビリテーション医学</td><td>17</td><td>補装具(義肢・装具</td></tr><tr><td>3</td><td>リハビリテーション基礎医学</td><td>18</td><td>補装具(義肢・装具</td></tr><tr><td>4</td><td>リハビリテーション障害学</td><td>19</td><td>言語聴覚療法</td></tr><tr><td>5</td><td>リハビリテーション治療学</td><td>20</td><td>中枢神経障害</td></tr><tr><td>6</td><td>患者のとらえ方</td><td>21</td><td>中枢神経障害</td></tr><tr><td>7</td><td>身体測定と関節可動域測定法</td><td>22</td><td>末梢神経障害</td></tr><tr><td>8</td><td>MMTと中枢神経障害の評価</td><td>23</td><td>関節リウマチ</td></tr><tr><td>9</td><td>MMTと中枢神経腫愛の評価</td><td>24</td><td>整形外科疾患</td></tr><tr><td>10</td><td>心理評価とADL</td><td>25</td><td>整形外科疾患</td></tr><tr><td>11</td><td>心理評価とADL</td><td>26</td><td>小児疾患</td></tr><tr><td>12</td><td>電気生理学的断と画像診断</td><td>27</td><td>心疾患,呼吸器疾患</td></tr><tr><td>13</td><td>理学療法</td><td>28</td><td>老人のリハビリテーション</td></tr><tr><td>14</td><td>理学療法</td><td>29</td><td>まとめ</td></tr><tr><td></td><td>期末試験</td><td></td><td>期末試験</td></tr><tr><td>15</td><td>期末試験解説</td><td>30</td><td>期末試験解説</td></tr></table>						1	リハビリテーションの概念と歴史	16	作業療法	2	障害とリハビリテーション医学	17	補装具(義肢・装具	3	リハビリテーション基礎医学	18	補装具(義肢・装具	4	リハビリテーション障害学	19	言語聴覚療法	5	リハビリテーション治療学	20	中枢神経障害	6	患者のとらえ方	21	中枢神経障害	7	身体測定と関節可動域測定法	22	末梢神経障害	8	MMTと中枢神経障害の評価	23	関節リウマチ	9	MMTと中枢神経腫愛の評価	24	整形外科疾患	10	心理評価とADL	25	整形外科疾患	11	心理評価とADL	26	小児疾患	12	電気生理学的断と画像診断	27	心疾患,呼吸器疾患	13	理学療法	28	老人のリハビリテーション	14	理学療法	29	まとめ		期末試験		期末試験	15	期末試験解説	30	期末試験解説
1	リハビリテーションの概念と歴史	16	作業療法																																																																		
2	障害とリハビリテーション医学	17	補装具(義肢・装具																																																																		
3	リハビリテーション基礎医学	18	補装具(義肢・装具																																																																		
4	リハビリテーション障害学	19	言語聴覚療法																																																																		
5	リハビリテーション治療学	20	中枢神経障害																																																																		
6	患者のとらえ方	21	中枢神経障害																																																																		
7	身体測定と関節可動域測定法	22	末梢神経障害																																																																		
8	MMTと中枢神経障害の評価	23	関節リウマチ																																																																		
9	MMTと中枢神経腫愛の評価	24	整形外科疾患																																																																		
10	心理評価とADL	25	整形外科疾患																																																																		
11	心理評価とADL	26	小児疾患																																																																		
12	電気生理学的断と画像診断	27	心疾患,呼吸器疾患																																																																		
13	理学療法	28	老人のリハビリテーション																																																																		
14	理学療法	29	まとめ																																																																		
	期末試験		期末試験																																																																		
15	期末試験解説	30	期末試験解説																																																																		
[使用テキスト・参考文献] リハビリテーション医学改訂第4版 三上 真弘・編 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席率を含め定期試験結果をもとに総合的に評価する。																																																																		

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復術の適応		担当者 渡邊 浩志	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 柔道整復師として扱うことができる外傷と扱うことができないまたは、扱うべきではない外傷及び類似症状がある疾患について適切に判断できる基礎的な知識を身に付けることを目的とする。					
[内容の概要] 柔道整復師の適応な外傷であるか否かの判断、損傷に類似した症状を呈す疾患を学ぶ。					
[修了時の達成課題(到達目標)] 正しい判断ができる基礎的な知識を身に着ける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 柔道整復術の適否を考える p1～p8 2 損傷に類似した症状を示す疾患 p9～p21 3 血流障害を伴う損傷・末梢神経損傷を伴う損傷 p23～p36 4 脱臼骨折・外出血を伴う損傷 p37～p48 5 病的骨折および脱臼・意識障害を伴う損傷 p49～p57 6 脊髄症状のある損傷 p59～p66 7 呼吸運動障害を伴う損傷 p67～p72 8 内臓損傷の合併が疑われる損傷 p73～p77 9 高エネルギー外傷 p79～p81 10 1・2復習 11 3・4復習 12 5・6復習 13 7・8・9復習 14 総復習 期末試験 15 試験解説 総まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 施術の適応と医用画像の理解(南江堂)			[単位認定の方法及び基準] 出席2／3以上を必要とする。 期末試験において60点以上の得点で単位を認める。		

学科名 柔整学科	科目名 柔 道 I		担当者 太田 浩之																																
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] 柔道を通して、心身を鍛練し健康及び体力の維持増進を図る。また、柔道において「相手に技を掛け る。」という事は、自らの体を合理的に使い相手の体をコントロールする事が必要になる。従って1 年 次は、体の合理的な使い方と対人技能の基礎を学び、柔道整復実技を学習する際の一助となる事を目的 とする。																																			
[内容の概要] 歴史、礼法、姿勢、組み方、進退動作、受身、投技、固技																																			
[修了時の達成課題（到達目標）] 競技柔道を主とするのではなく、柔道の素養を身につける事を目標とする。																																			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td><前期></td><td><後期></td></tr><tr><td>1 ガイダンス</td><td>16 前期の復習</td></tr><tr><td>2 柔道着の着方・基本動作・礼法</td><td>17 形（浮落～）</td></tr><tr><td>3 礼法・受身</td><td>18 形（浮落～）</td></tr><tr><td>4 礼法・受身</td><td>19 形（浮落～）</td></tr><tr><td>5 礼法・受身</td><td>20 形（浮落～背負投）</td></tr><tr><td>6 礼法・受身</td><td>21 形（浮落～背負投）</td></tr><tr><td>7 礼法・受身・立技</td><td>22 形（浮落～背負投）</td></tr><tr><td>8 礼法・受身・立技</td><td>23 形（浮落～肩車）</td></tr><tr><td>9 礼法・受身・立技</td><td>24 形（浮落～肩車）</td></tr><tr><td>10 礼法・受身・立技</td><td>25 形（浮落～肩車）</td></tr><tr><td>11 礼法・受身・立技</td><td>26 形（浮落～浮腰）</td></tr><tr><td>12 礼法・受身・立技・固技</td><td>27 形（浮落～浮腰）</td></tr><tr><td>13 礼法・受身・立技・固技</td><td>28 形（浮落～浮腰）</td></tr><tr><td>14 礼法・受身・立技・固技</td><td>29 形（浮落～浮腰）</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>				<前期>	<後期>	1 ガイダンス	16 前期の復習	2 柔道着の着方・基本動作・礼法	17 形（浮落～）	3 礼法・受身	18 形（浮落～）	4 礼法・受身	19 形（浮落～）	5 礼法・受身	20 形（浮落～背負投）	6 礼法・受身	21 形（浮落～背負投）	7 礼法・受身・立技	22 形（浮落～背負投）	8 礼法・受身・立技	23 形（浮落～肩車）	9 礼法・受身・立技	24 形（浮落～肩車）	10 礼法・受身・立技	25 形（浮落～肩車）	11 礼法・受身・立技	26 形（浮落～浮腰）	12 礼法・受身・立技・固技	27 形（浮落～浮腰）	13 礼法・受身・立技・固技	28 形（浮落～浮腰）	14 礼法・受身・立技・固技	29 形（浮落～浮腰）	15 試験解説	30 試験解説
<前期>	<後期>																																		
1 ガイダンス	16 前期の復習																																		
2 柔道着の着方・基本動作・礼法	17 形（浮落～）																																		
3 礼法・受身	18 形（浮落～）																																		
4 礼法・受身	19 形（浮落～）																																		
5 礼法・受身	20 形（浮落～背負投）																																		
6 礼法・受身	21 形（浮落～背負投）																																		
7 礼法・受身・立技	22 形（浮落～背負投）																																		
8 礼法・受身・立技	23 形（浮落～肩車）																																		
9 礼法・受身・立技	24 形（浮落～肩車）																																		
10 礼法・受身・立技	25 形（浮落～肩車）																																		
11 礼法・受身・立技	26 形（浮落～浮腰）																																		
12 礼法・受身・立技・固技	27 形（浮落～浮腰）																																		
13 礼法・受身・立技・固技	28 形（浮落～浮腰）																																		
14 礼法・受身・立技・固技	29 形（浮落～浮腰）																																		
15 試験解説	30 試験解説																																		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ・実技試験・授業態度を総合的に判断し評価する。（実技試験：60 点以上合格） ・授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。																																	

学科名 柔整学科	科目名 柔道Ⅱ		担当者 太田浩之
種類 (講義・演習・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 3年次に開催される(財)全国柔道整復学校協会主催の実技認定審査に向け、技能・能力の到達度を向上させる。 [内容の概要] 形・立技を中心に授業を実施。また、講道館柔道学内特別昇段試験を任意で受験する事が可能。 [修了時の達成課題(到達目標)] (財)全国柔道整復学校協会主催の実技認定審査に対応できる技術・能力を養う事を目標とする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 1年次の復習(礼法・寝技・立技等) 2 形(浮落～浮腰) 3 形(浮落～払腰) 4 形(浮落～払腰) 5 形(浮落～釣込腰) 6 形(浮落～釣込腰) 7 形(浮落～送足払) 8 形(浮落～送足払) 9 形(浮落～支釣込足) 10 形(浮落～支釣込足) 11 形(浮落～内股) 12 形(浮落～内股) 13 1～12復習 14 1～12復習 15 試験解説			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ・実技試験・授業態度を総合的に判断し評価する。(実技試験は、60点以上のものを合格とする。) ・授業時数の4/5以上出席を必要とする。	

学科名 柔整学科	科目名 柔 道 III		担当者 太田浩之
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 3学年 前期 後期
[目的・ねらい] (財)全国柔道整復学校協会主催の実技認定審査に、合格できる技能・能力を身につける。 [内容の概要] 実技認定審査の審査項目（礼法、前方回転受身、形、約束乱取） [修了時の達成課題（到達目標）] (財)全国柔道整復学校協会主催の実技認定審査に対応できる技術・能力を養う事を目標とする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 2年次の復習（礼法・寝技・立技等） - 形・約束乱取 - 形・約束乱取 - 形・約束乱取 - 形・約束乱取 - 形・約束乱取 - 形・約束乱取 - 形・約束乱取 - 形・約束乱取・認定実技審査対策 - 形・約束乱取・認定実技審査対策 - 形・約束乱取・認定実技審査対策 - 形・約束乱取・認定実技審査対策 - 形・約束乱取・認定実技審査対策 - 予備 - 試験解説			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ・実技試験・授業態度を総合的に判断し評価する。 (実技試験：60点以上合格) ・授業時数の4/5以上出席を必要とする。	

学科名 柔整学科		科目名 衛生学・公衆衛生学		担当者 相川 貴裕	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 健康に対する考え方を学び、個と集団の健康を守るためのツールとして衛生学・公衆衛生学の知識を身につけ、科学的な観察、判断、考察ができるようになること。					
[内容の概要] 衛生学・公衆衛生学を一通り学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 衛生学・公衆衛生学の考え方を身につけ、国家試験合格レベルの知識を身につけること。 また将来、院内感染等の事故を防止できるような知識を持つとともに、医療人として地域社会の公衆衛生に資することができる施術者になるための考察力を習得すること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 衛生学の歴史・健康の概念 2 疾病の予防 3 消毒 4 環境衛生 5 生活環境・食品衛生活動 6 母子保健 7 学校保健 8 産業保健 9 成人・高齢者保健 10 精神保健 11 地域保健と国際保健，衛生行政と保健医療の制度 12 医療の倫理と安全の確保 13 疫学 14 復習 15 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学 改訂第6版 南江堂 配布資料			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験を行い、60点以上を合格とする。		

学科名 柔整学科		科目名 関係法規Ⅰ		担当者 柳樂美作男	
種類 (講義・演習・実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 医療従事者となるための職業倫理を理解し、柔道整復師としての自覚を持たせる。 [内容の概要] 法とは何かという基本をまなび、柔道整復師やその他医療従事者を規律する法律の基礎を学ぶ。 医療の法的な位置づけを理解し、医療従事者における職業倫理、柔道整復師の職業倫理、コンプライア ンス向上を図る授業を行う。 [修了時の達成課題(到達目標)] 法律の概念を理解し、法の規定の下で医療を行う医療者としての職業倫理を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 法律の概論 2 医療者の倫理 3 患者の権利 4 患者への説明(インフォームドコンセント) 5 個人情報・守秘義務・リスクマネジメント 6 柔道整復師の質保証の取り組み 7 医療保険の概念 8 国民医療費と柔整療養費 9 カルテ記載・コンプライアンス向上 10 コンプライアンス向上 11 柔道整復師を規律する法律 12 他の医療職種や医療全体を規律する法律 13 社会保障関係法規 14 社会福祉関係法規・国試過去問紹介 期末試験 15 試験解説・ふりかえり・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 関係法規 (医歯薬出版)			[単位認定の方法及び基準] 出席 2/3 を必要とする。期末試験で 60 点以上取得 することで単位を認める。		

学科名 柔整学科		科目名 関係法規Ⅱ		担当者 埤 義徳	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 3学年 前期 後期
[目的・ねらい] 柔道整復師法を含めた関係法規を理解し、柔道整復師としての自覚を持たせる。また、国家試験に対応できる力を養う。 [内容の概要] 法の意義、柔道整復師法とその他の関係法規を講義する。また、職業倫理や療養費、保険等の取り扱いについてのコンプライアンス向上の内容も講義を行う。(各回「柔道整復師法(業務)」内) [修了時の達成課題(到達目標)] 柔道整復師法とその他の関係法規を正しく理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 序論(法の体系／インフォームド・コンセント) 2 序論(医療過誤とリクスマネジメント) 3 柔道整復師法①(総論・免許・名簿) 4 柔道整復師法②(免許証・国家試験) 5 柔道整復師法③(業務・施術所) 6 柔道整復師法④ 7 柔道整復師法⑤(雑則) 8 柔道整復師法⑥(罰則・指定登録機関) 9 まとめ(確認テスト) 10 その他関係法規① (職業倫理・医療従事者の資格法) 11 その他関係法規②(医療法) 12 その他関係法規③(社会福祉関係法規) 13 その他関係法規④(社会保険に関わる) 14 個人情報保護に関する法律 前期末試験 15 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 関係法規 2025年版			[単位認定の方法及び基準] 試験の受験には出席率 2/3 以上を必要とする。 前期末試験で 60 点以上取得することで単位を認める。		

学科名 柔整学科		科目名 医学史		担当者 柳楽 美作男	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ・ 人類が人を癒すために行った営みについて学ぶ。 ・ 歴史を通じて医療人としての自覚を確立する					
[内容の概要] ・ 西洋医学通史・東洋医学通史・医学分野ごとの歴史的トピック					
[修了時の達成課題（到達目標）] ・ 医学の歴史についての知識を得るとともに先人の努力についての敬意を持つ医療人となる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 シラバスの説明・ガイダンス 2 西洋医学通史① 3 西洋医学通史② 4 西洋医学通史③ 5 西洋医学通史④ 6 西洋医学通史⑤ 7 西洋医学通史⑥ 8 東洋医学通史① 9 東洋医学通史② 10 東洋医学通史③ 11 医療分野の歴史トピック 12 医療分野の歴史トピック 13 まとめ・試験 14 ふりかえり・医療分野の歴史トピック					
[使用テキスト・参考文献] 資料配布を行います			[単位認定の方法及び基準] 出席 2/3 を必要とする。 評価は最終レポート提出でこれにあたる。		

学科名 柔整学科		科目名 社会保障制度		担当者 柳楽 美作男	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 8 回	時間数(単位数) 1 5 時間 (1 単位)		配当学年・時期 3 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 我が国の社会保障がどのようになっているのか理解し、柔道整復師として正しく療養費の申請ができるようにする。 [内容の概要] 社会保障制度、医療保険制度を理解することと柔道整復師の業務における療養費支給申請がどのようになっているかを授業する。 [修了時の達成課題（到達目標）] 社会保障制度、柔道整復師の療養費について正しく理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 社会保障とは 2 社会保険制度とは 3 医療保険制度とは 4 柔道整復師業務における療養費 5 療養費とは 6 療養費のケーススタディ 7 社会保障制度の過去問練習 期末試験 8 振り返り、まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 (医歯薬出版)			[単位認定の方法及び基準] 出席 2/3 を必要とする。期末試験、授業態度、レポート等で 60 点以上取得することで単位を認める。		

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復基礎理論Ⅰ		担当者 森山 嵩大																																	
種類 (講義・演習・実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期																																	
[目的・ねらい] 柔道整復師の成り立ち、柔道整復術とはなにかを理解させる。																																					
[内容の概要] 柔道整復術および柔道整復師の沿革 業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領 脱臼総論、頭部・顔面及び胸部の各論																																					
[修了時の達成課題(到達目標)] 次年次への基礎理論の取得と将来の柔道整復師としての資質向上																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 オリエンテーション</td><td>16 筋損傷</td></tr><tr><td>2 人体に加わる力</td><td>17 筋損傷</td></tr><tr><td>3 損傷時に加わる力</td><td>18 筋損傷</td></tr><tr><td>4 痛みの基礎</td><td>19 腱損傷</td></tr><tr><td>5 痛みの基礎</td><td>20 腱損傷</td></tr><tr><td>6 まとめ</td><td>21 まとめ</td></tr><tr><td>7 前期中間試験</td><td>22 試験解説</td></tr><tr><td>8 試験解説</td><td>23 腱損傷</td></tr><tr><td>9 関節損傷</td><td>24 末梢神経損傷</td></tr><tr><td>10 脱臼総論</td><td>25 末梢神経損傷</td></tr><tr><td>11 脱臼総論</td><td>26 末梢神経損傷</td></tr><tr><td>12 脱臼総論</td><td>27 外傷予防</td></tr><tr><td>13 その他の関節損傷</td><td>28 外傷予防</td></tr><tr><td>14 まとめ</td><td>29 まとめ</td></tr><tr><td>前期期末試験</td><td>後期期末試験</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>						1 オリエンテーション	16 筋損傷	2 人体に加わる力	17 筋損傷	3 損傷時に加わる力	18 筋損傷	4 痛みの基礎	19 腱損傷	5 痛みの基礎	20 腱損傷	6 まとめ	21 まとめ	7 前期中間試験	22 試験解説	8 試験解説	23 腱損傷	9 関節損傷	24 末梢神経損傷	10 脱臼総論	25 末梢神経損傷	11 脱臼総論	26 末梢神経損傷	12 脱臼総論	27 外傷予防	13 その他の関節損傷	28 外傷予防	14 まとめ	29 まとめ	前期期末試験	後期期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 オリエンテーション	16 筋損傷																																				
2 人体に加わる力	17 筋損傷																																				
3 損傷時に加わる力	18 筋損傷																																				
4 痛みの基礎	19 腱損傷																																				
5 痛みの基礎	20 腱損傷																																				
6 まとめ	21 まとめ																																				
7 前期中間試験	22 試験解説																																				
8 試験解説	23 腱損傷																																				
9 関節損傷	24 末梢神経損傷																																				
10 脱臼総論	25 末梢神経損傷																																				
11 脱臼総論	26 末梢神経損傷																																				
12 脱臼総論	27 外傷予防																																				
13 その他の関節損傷	28 外傷予防																																				
14 まとめ	29 まとめ																																				
前期期末試験	後期期末試験																																				
15 試験解説	30 試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学(理論編) 改訂第7版 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席4／5以上を必要とする。 筆記試験の評価は中間試験と期末試験を前期と後期に計4回行い、合計240点以上(平均60点以上)で単位修得とする																																		

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復基礎理論Ⅱ		担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] 本科目では、柔道整復学の基礎となる総論部分を学習します。柔道整復の歴史、業務内容、骨損傷（骨折）の基礎知識、および基本的な診察・治療法について理解を深めます。また、柔道整復について社会に発信できる人材を育成するために、基本的な知識を習得することを目指します。これにより、柔道整復師としての基礎的な理論と知識を身につけ、将来の臨床実践や社会貢献に向けた土台を築きます。																																					
[内容の概要] 柔道整復の歴史、業務内容、骨損傷（骨折）の基礎知識、基本的な診察や治療法（整復法、固定法、後療法）を学びます。																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 柔道整復の基礎知識と社会的役割を理解し説明できる。また、骨折の基礎知識を習得し、診察・治療に関する理論的理解を深め、2年次での実践に向けた基盤を形成する。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 柔道整復術および柔道整復師の沿革</td><td>16 神経の機能と構造</td></tr><tr><td>2 柔道整復師の業務、業務範囲</td><td>17 神経損傷</td></tr><tr><td>3 骨の構造と機能</td><td>18 神経損傷</td></tr><tr><td>4 骨損傷の概説</td><td>19 神経損傷</td></tr><tr><td>5 骨折の分類</td><td>20 診察</td></tr><tr><td>6 骨折の症状</td><td>21 診察</td></tr><tr><td>7 前期中間試験</td><td>22 後期中間試験</td></tr><tr><td>8 骨折の合併症</td><td>23 固定法</td></tr><tr><td>9 骨折の合併症</td><td>24 固定法</td></tr><tr><td>10 骨折の合併症</td><td>25 固定法</td></tr><tr><td>11 骨折の合併症</td><td>26 後療法-手技療法</td></tr><tr><td>12 小児骨折・高齢者骨折の特徴</td><td>27 後療法-運動療法</td></tr><tr><td>13 骨折の癒合日数・治癒過程</td><td>28 後療法-物理療法</td></tr><tr><td>14 骨折の予後</td><td>29 後療法（実技）</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15 前期まとめ</td><td>30 後期および年間まとめ</td></tr></table>						1 柔道整復術および柔道整復師の沿革	16 神経の機能と構造	2 柔道整復師の業務、業務範囲	17 神経損傷	3 骨の構造と機能	18 神経損傷	4 骨損傷の概説	19 神経損傷	5 骨折の分類	20 診察	6 骨折の症状	21 診察	7 前期中間試験	22 後期中間試験	8 骨折の合併症	23 固定法	9 骨折の合併症	24 固定法	10 骨折の合併症	25 固定法	11 骨折の合併症	26 後療法-手技療法	12 小児骨折・高齢者骨折の特徴	27 後療法-運動療法	13 骨折の癒合日数・治癒過程	28 後療法-物理療法	14 骨折の予後	29 後療法（実技）	前期末試験	後期末試験	15 前期まとめ	30 後期および年間まとめ
1 柔道整復術および柔道整復師の沿革	16 神経の機能と構造																																				
2 柔道整復師の業務、業務範囲	17 神経損傷																																				
3 骨の構造と機能	18 神経損傷																																				
4 骨損傷の概説	19 神経損傷																																				
5 骨折の分類	20 診察																																				
6 骨折の症状	21 診察																																				
7 前期中間試験	22 後期中間試験																																				
8 骨折の合併症	23 固定法																																				
9 骨折の合併症	24 固定法																																				
10 骨折の合併症	25 固定法																																				
11 骨折の合併症	26 後療法-手技療法																																				
12 小児骨折・高齢者骨折の特徴	27 後療法-運動療法																																				
13 骨折の癒合日数・治癒過程	28 後療法-物理療法																																				
14 骨折の予後	29 後療法（実技）																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15 前期まとめ	30 後期および年間まとめ																																				
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学（理論・実技編） 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席5分の4以上かつ前・後期中間・期末試験において、平均60点以上で単位を認める。																																		

2025年度授業概要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復学演習		担当者 太田 浩之
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 3 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 柔道整復学・理論編の復習を行い柔道整復師の国家試験対策を行う。 [内容の概要] 柔道整復学・理論編（総論） [修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験を合格する為の知識を習得する。			

[授業の日程と各回のテーマ・内容] - 骨折の定義・骨折の分類・骨折の症状 - 骨折の症状・骨折の合併症 - 骨折の合併症・ソルターハリスの分類 - 靱帯,関節包の損傷・関節軟骨の損傷・脱臼 - 脱臼・神経損傷 - 筋損傷・腱損傷 - 腱損傷 - 問診・視診・脈診・計測・施術録 - 骨損傷の整復法・軟部組織損傷・固定・手技療法 - 手技療法・運動療法・物理療法・指導管理 - 予備 - 予備 - 予備 - 予備 - 試験解説
--

[使用テキスト・参考文献] ・柔道整復師 国家試験問題	[単位認定の方法及び基準] ・期末試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。（実技試験：60 点以上合格） ・授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。
---	--

学科名 柔整学科		科目名 基礎総合演習 A		担当者 森山 嵩大			
種類 (講義 <u>演習</u> 実習)		回数 6 0 回	時間数(単位数) 1 2 0 時間 (4 単位)	配当学年・時期 1 学年 <u>前期</u> <u>後期</u>			
[目的・ねらい] 生理学は、文字通り「生きる理屈」を考える学問であり、神経系、感覚器系、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、運動器系などの諸機能について理解することを目的とする。柔整学科において生理学の扱う範囲は、医学部等の「生理学」教科書で扱われている範囲に加えて、「生化学」「免疫学」「神経科学」等の分野をも含んでいる。これらの諸分野の相互関連性を踏まえ、解剖学とも関連づけながら、驚異的に精密な人体の仕組みを総合的に理解することを目標とする。 [内容の概要] 生命活動の基礎となるDNA、タンパク質や糖質、脂質等のもつ基本的性質を理解し、さらに、ホルモン等、具体的な生体内物質について学び、またそれらの生体内物質により、どのように生体の恒常性（ホメオスタシス）が保たれているかを理解する。 [修了時の達成課題（到達目標）] 人体の諸臓器の機能を説明できる。一般臨床医学等、他科目にも共通する生理学の用語の意味や生体物質の役割を理解し、説明できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td> <前期> 1～3 生理学とは 4～5 筋 6～9 神経 10～11 運動 12～14 まとめ 15～17 感覚 18～21 内分泌 22～23 生殖 24～27 血液 28～29 まとめ・期末試験・試験解説 30 骨 </td><td> <後期> 31 骨（つづき） 32～35 循環 36～37 呼吸 38～41 尿 42～44 まとめ 45～50 栄養と代謝 51～53 消化と吸収 54 体温 55～56 高齢者の生理学的特徴・変化 57～58 発達と発育および競技者の生理学的特徴・変化 59～60 まとめ・期末試験・試験解説 </td></tr></table>						<前期> 1～3 生理学とは 4～5 筋 6～9 神経 10～11 運動 12～14 まとめ 15～17 感覚 18～21 内分泌 22～23 生殖 24～27 血液 28～29 まとめ・期末試験・試験解説 30 骨	<後期> 31 骨（つづき） 32～35 循環 36～37 呼吸 38～41 尿 42～44 まとめ 45～50 栄養と代謝 51～53 消化と吸収 54 体温 55～56 高齢者の生理学的特徴・変化 57～58 発達と発育および競技者の生理学的特徴・変化 59～60 まとめ・期末試験・試験解説
<前期> 1～3 生理学とは 4～5 筋 6～9 神経 10～11 運動 12～14 まとめ 15～17 感覚 18～21 内分泌 22～23 生殖 24～27 血液 28～29 まとめ・期末試験・試験解説 30 骨	<後期> 31 骨（つづき） 32～35 循環 36～37 呼吸 38～41 尿 42～44 まとめ 45～50 栄養と代謝 51～53 消化と吸収 54 体温 55～56 高齢者の生理学的特徴・変化 57～58 発達と発育および競技者の生理学的特徴・変化 59～60 まとめ・期末試験・試験解説						
[使用テキスト・参考文献] 全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版 彼末一之 他著 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席は前期、後期それぞれ4／5を必要とする。 前期、後期それぞれ期末試験を行い、計2回の試験成績を合算して評価する。				

学科名 柔整学科		科目名 基礎総合演習 B		担当者 柳楽 美作男	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数 (単位数) 3 0 時間 (1 単位)	配当学年 ・ 時期 3 学年 前期 後期	
[目的・ねらい] これまでに学習した柔道整復師専門領域において、国家試験に必要な知識と考え方を身につける。					
[内容の概要] 柔道、医療概論、社会保障、関係法規、柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学、公衆衛生学、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学					
[修了時の達成課題 (到達目標)] 柔道整復師国家試験合格レベルにおける知識が習得できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 必修問題、解剖学、生理学、運動学、病理学 2 衛生学、リハビリ医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学、柔道整復理論 3 必修問題、解剖学、生理学、運動学、病理学 4 衛生学、リハビリ医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学、柔道整復理論 5 必修問題、解剖学、生理学、運動学、病理学 6 衛生学、リハビリ医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学、柔道整復理論 7 必修問題、解剖学、生理学、運動学、病理学 8 衛生学、リハビリ医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学、柔道整復理論 9 必修問題、解剖学、生理学、運動学、病理学 10 衛生学、リハビリ医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学、柔道整復理論 11 必修問題、解剖学、生理学、運動学、病理学 12 衛生学、リハビリ医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学、柔道整復理論 13 必修問題、解剖学、生理学、運動学、病理学 14 衛生学、リハビリ医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学、柔道整復理論 期末試験 15 ふりかえり					
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復師 国家試験問題			[単位認定の方法及び基準] ・出席 4/5 以上を必要とする。 ・期末試験において 60 点以上を合格とする。		

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学ⅠA		担当者 埤 義徳																															
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																															
[目的・ねらい] 上肢（鎖骨・肩甲骨・鎖骨関節・肩関節・軟部組織）各部の外傷について正確に理解し、国家試験に向けた準備を行う。																																			
[内容の概要] 座学では、理論、実技では、方法、適応を学ぶ。また、学習内容の現場実践のため、年度途中にフィールドワーク（学外実習）を行う場合がある。																																			
[修了時の達成課題（到達目標）] 学んだ項目について正確に説明できる。類似外傷との鑑別が適切にできる。																																			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 範囲内解剖学復習</td><td>16 肩関節脱臼①</td></tr><tr><td>2 鎖骨骨折①</td><td>17 肩関節脱臼②</td></tr><tr><td>3 鎖骨骨折②</td><td>18 肩関節前方脱臼実技①</td></tr><tr><td>4 鎖骨骨折実技①</td><td>19 肩関節前方脱臼実技②</td></tr><tr><td>5 鎖骨骨折実技②</td><td>20 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）①</td></tr><tr><td>6 上腕骨近位部骨折①</td><td>21 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）②</td></tr><tr><td>7 上腕骨近位部骨折②</td><td>22 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技①</td></tr><tr><td>8 上腕骨外科頸骨折実技</td><td>23 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技②</td></tr><tr><td>9 胸鎖・肩鎖関節脱臼①</td><td>24 後期実技試験</td></tr><tr><td>10 胸鎖・肩鎖関節脱臼②</td><td>25 スポーツ損傷</td></tr><tr><td>11 肩鎖関節脱臼実技</td><td>26 不安定症</td></tr><tr><td>12 前期実技試験</td><td>27 末梢神経障害（肩甲上神経・腋窩神経）</td></tr><tr><td>13 肩甲骨骨折</td><td>28 その他の疾患</td></tr><tr><td>14 まとめ 前期期末試験</td><td>29 まとめ 後期期末試験</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>						1 範囲内解剖学復習	16 肩関節脱臼①	2 鎖骨骨折①	17 肩関節脱臼②	3 鎖骨骨折②	18 肩関節前方脱臼実技①	4 鎖骨骨折実技①	19 肩関節前方脱臼実技②	5 鎖骨骨折実技②	20 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）①	6 上腕骨近位部骨折①	21 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）②	7 上腕骨近位部骨折②	22 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技①	8 上腕骨外科頸骨折実技	23 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技②	9 胸鎖・肩鎖関節脱臼①	24 後期実技試験	10 胸鎖・肩鎖関節脱臼②	25 スポーツ損傷	11 肩鎖関節脱臼実技	26 不安定症	12 前期実技試験	27 末梢神経障害（肩甲上神経・腋窩神経）	13 肩甲骨骨折	28 その他の疾患	14 まとめ 前期期末試験	29 まとめ 後期期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 範囲内解剖学復習	16 肩関節脱臼①																																		
2 鎖骨骨折①	17 肩関節脱臼②																																		
3 鎖骨骨折②	18 肩関節前方脱臼実技①																																		
4 鎖骨骨折実技①	19 肩関節前方脱臼実技②																																		
5 鎖骨骨折実技②	20 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）①																																		
6 上腕骨近位部骨折①	21 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）②																																		
7 上腕骨近位部骨折②	22 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技①																																		
8 上腕骨外科頸骨折実技	23 筋・腱の損傷（肩板・上腕二頭筋）実技②																																		
9 胸鎖・肩鎖関節脱臼①	24 後期実技試験																																		
10 胸鎖・肩鎖関節脱臼②	25 スポーツ損傷																																		
11 肩鎖関節脱臼実技	26 不安定症																																		
12 前期実技試験	27 末梢神経障害（肩甲上神経・腋窩神経）																																		
13 肩甲骨骨折	28 その他の疾患																																		
14 まとめ 前期期末試験	29 まとめ 後期期末試験																																		
15 試験解説	30 試験解説																																		
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学（理論偏）改訂第7版 南江堂 柔道整復学（実技編）改訂第2版 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 試験の受験には出席率 4/5 以上を必要とする。 筆記試験は小テスト（50％）期末試験（50％）として 100 点満点で評価する。 実技試験（前期・後期）でそれぞれ 60 点以上を合格とする。通年で実技・筆記の両方が 60 点以上の者を単位修得とする。																																

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学ⅠB		担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] 本授業では生命にかかわる合併損傷をきたすものもあり、現場にてその発生が疑われる場合の症状・対処を学習する。また、顎関節脱臼や肋骨骨折などの疾患については、施術所へ来院することもあり、整復法、後療法について学習する。いずれの項目においても、基礎的な考え方を含め、臨床現場および国家試験に対応できる知識・ポイントの習得も目的とする。 [内容の概要] 各傷病の特徴に加え、応急処置としての整復・固定方法および、後療・リハビリ現場において柔道整復師が施術にあたる場合の注意点などについて学習する。 [修了時の達成課題（到達目標）] 各傷病についての理解を深め、臨床に応用できる。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1. 頭蓋骨骨折</td><td>16. 脊椎の脱臼</td></tr><tr><td>2. 頭蓋骨骨折</td><td>17. 顎関節症</td></tr><tr><td>3. 頭蓋骨骨折</td><td>18. 顎関節症</td></tr><tr><td>4. 頸椎の骨折</td><td>19. 肋骨骨折</td></tr><tr><td>5. 頸椎の骨折</td><td>20. 肋骨骨折</td></tr><tr><td>6. 胸椎の骨折</td><td>21. 肋骨骨折</td></tr><tr><td>7. 胸椎の骨折</td><td>22. 胸骨骨折</td></tr><tr><td>8. 腰椎の骨折</td><td>23. 胸骨骨折</td></tr><tr><td>9. 腰椎の骨折</td><td>24. 上腕部の末梢神経障害</td></tr><tr><td>10. 顎関節脱臼</td><td>25. 上腕部の末梢神経障害</td></tr><tr><td>11. 顎関節脱臼</td><td>26. 前腕部の末梢神経障害</td></tr><tr><td>12. 顎関節脱臼</td><td>27. 前腕部の末梢神経障害</td></tr><tr><td>13. 頭部・顔面部打撲</td><td>28. 前腕部の末梢神経障害</td></tr><tr><td>14. 頭部・顔面部打撲</td><td>29. 前腕部の末梢神経障害</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15. 試験解説</td><td>30. 試験の解説</td></tr></table>						1. 頭蓋骨骨折	16. 脊椎の脱臼	2. 頭蓋骨骨折	17. 顎関節症	3. 頭蓋骨骨折	18. 顎関節症	4. 頸椎の骨折	19. 肋骨骨折	5. 頸椎の骨折	20. 肋骨骨折	6. 胸椎の骨折	21. 肋骨骨折	7. 胸椎の骨折	22. 胸骨骨折	8. 腰椎の骨折	23. 胸骨骨折	9. 腰椎の骨折	24. 上腕部の末梢神経障害	10. 顎関節脱臼	25. 上腕部の末梢神経障害	11. 顎関節脱臼	26. 前腕部の末梢神経障害	12. 顎関節脱臼	27. 前腕部の末梢神経障害	13. 頭部・顔面部打撲	28. 前腕部の末梢神経障害	14. 頭部・顔面部打撲	29. 前腕部の末梢神経障害	前期末試験	後期末試験	15. 試験解説	30. 試験の解説
1. 頭蓋骨骨折	16. 脊椎の脱臼																																				
2. 頭蓋骨骨折	17. 顎関節症																																				
3. 頭蓋骨骨折	18. 顎関節症																																				
4. 頸椎の骨折	19. 肋骨骨折																																				
5. 頸椎の骨折	20. 肋骨骨折																																				
6. 胸椎の骨折	21. 肋骨骨折																																				
7. 胸椎の骨折	22. 胸骨骨折																																				
8. 腰椎の骨折	23. 胸骨骨折																																				
9. 腰椎の骨折	24. 上腕部の末梢神経障害																																				
10. 顎関節脱臼	25. 上腕部の末梢神経障害																																				
11. 顎関節脱臼	26. 前腕部の末梢神経障害																																				
12. 顎関節脱臼	27. 前腕部の末梢神経障害																																				
13. 頭部・顔面部打撲	28. 前腕部の末梢神経障害																																				
14. 頭部・顔面部打撲	29. 前腕部の末梢神経障害																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15. 試験解説	30. 試験の解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂			[単位認定の方法及び基準] ・出席 4/5 以上を必要とする。 ・筆記試験の評価は、前期期末と後期期末の評価を総合して評価する。各試験の合計120点（平均60点以上）をもって単位認定とする。																																		

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学Ⅱ A		担当者 埜 義徳																																																													
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 3 学年 前期 後期																																																													
[目的・ねらい] 頭部・顔面・体幹の国家試験対策と各種治療技術の向上をねらいとする。																																																																	
[内容の概要] 頭部・顔面・体幹の国家試験対策、必要に応じて各国家試験対策を行う。また、学習内容の現場実践のため、年度途中にフィールドワーク（学外実習）を行う場合がある。																																																																	
[修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験の出題傾向を把握し、対策ができる。																																																																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>国家試験とは①</td><td>16</td><td>体幹①</td></tr><tr><td>2</td><td>国家試験とは②</td><td>17</td><td>体幹②</td></tr><tr><td>3</td><td>国家試験対策</td><td>18</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>4</td><td>国家試験対策</td><td>19</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>5</td><td>国家試験対策</td><td>20</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>6</td><td>国家試験対策</td><td>21</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>7</td><td>国家試験対策</td><td>22</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>8</td><td>国家試験対策</td><td>23</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>9</td><td>頭部①</td><td>24</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>10</td><td>頭部②</td><td>25</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>11</td><td>顔面①</td><td>26</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>12</td><td>顔面②</td><td>27</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>13</td><td>顔面③</td><td>28</td><td>国家試験対策</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ 前期末試験</td><td>29</td><td>まとめ 後期末試験</td></tr><tr><td>15</td><td>試験解説</td><td>30</td><td>試験解説</td></tr></table>						1	国家試験とは①	16	体幹①	2	国家試験とは②	17	体幹②	3	国家試験対策	18	国家試験対策	4	国家試験対策	19	国家試験対策	5	国家試験対策	20	国家試験対策	6	国家試験対策	21	国家試験対策	7	国家試験対策	22	国家試験対策	8	国家試験対策	23	国家試験対策	9	頭部①	24	国家試験対策	10	頭部②	25	国家試験対策	11	顔面①	26	国家試験対策	12	顔面②	27	国家試験対策	13	顔面③	28	国家試験対策	14	まとめ 前期末試験	29	まとめ 後期末試験	15	試験解説	30	試験解説
1	国家試験とは①	16	体幹①																																																														
2	国家試験とは②	17	体幹②																																																														
3	国家試験対策	18	国家試験対策																																																														
4	国家試験対策	19	国家試験対策																																																														
5	国家試験対策	20	国家試験対策																																																														
6	国家試験対策	21	国家試験対策																																																														
7	国家試験対策	22	国家試験対策																																																														
8	国家試験対策	23	国家試験対策																																																														
9	頭部①	24	国家試験対策																																																														
10	頭部②	25	国家試験対策																																																														
11	顔面①	26	国家試験対策																																																														
12	顔面②	27	国家試験対策																																																														
13	顔面③	28	国家試験対策																																																														
14	まとめ 前期末試験	29	まとめ 後期末試験																																																														
15	試験解説	30	試験解説																																																														
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学（理論編）改訂第7版 南江堂 柔道整復学（実技編）改訂第2版 南江堂 その他教科書			[単位認定の方法及び基準] 試験の受験には出席率 4/5 以上を必要とする。 前期と後期の筆記試験の評価を総合し、平均 60 点以上で合格とする。筆記試験かつ、認定実技予備審査において 60 点以上で単位を認める。																																																														

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学Ⅱ B		担当者 専任教員																																																													
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 3 学年 前期 後期																																																													
[目的・ねらい] 柔道整復師に必要な総合的知識と国家試験合格に向けて準備を行う。また、他職種との連携やスポーツ現場・災害現場などでの柔道整復師としての活動について学習する。必要に応じて、学内外の実習や救護活動等の特別な実践機会を設ける場合がある。																																																																	
[内容の概要] 臨床的解剖学および総合的医学知識を中心に授業を実施し、これをもとに臨床に即した柔道整復師としての活動について講義ならびに実技で授業を行う。さらに、必要に応じて、フィールドワークや学外活動など実際の現場を想定した実践的な学びの機会を設けることがある。これにより、実際の現場において求められる対応力や判断力を養うことも目指す。																																																																	
[修了時の達成課題（到達目標）] 柔道整復師として必要な知識や技能を修得し、現場での応用力や対応力を高めるとともに、必要に応じて学外実習等を通じて実践力を養い、最終的には国家試験に合格できる総合的な力を身につける																																																																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>16</td><td>診察・評価</td></tr><tr><td>2</td><td>可動域測定</td><td>17</td><td>診察・評価</td></tr><tr><td>3</td><td>可動域測定</td><td>18</td><td>診察・評価</td></tr><tr><td>4</td><td>可動域測定</td><td>19</td><td>診察・評価</td></tr><tr><td>5</td><td>現場での応用</td><td>20</td><td>診察・評価</td></tr><tr><td>6</td><td>徒手筋力テスト</td><td>21</td><td>診察・評価</td></tr><tr><td>7</td><td>徒手筋力テスト</td><td>22</td><td>診察・評価</td></tr><tr><td>8</td><td>現場での応用</td><td>23</td><td>可動域訓練</td></tr><tr><td>9</td><td>テスト法</td><td>24</td><td>可動域訓練</td></tr><tr><td>10</td><td>テスト法</td><td>25</td><td>可動域訓練</td></tr><tr><td>11</td><td>テスト法</td><td>26</td><td>可動域訓練</td></tr><tr><td>12</td><td>応用実習（現場対応力の強化）</td><td>27</td><td>可動域訓練</td></tr><tr><td>13</td><td>実践的ケーススタディ</td><td>28</td><td>可動域訓練</td></tr><tr><td>14</td><td>臨床現場に関する実践的演習</td><td>29</td><td>可動域訓練</td></tr><tr><td>15</td><td>試験解説</td><td>30</td><td>まとめ</td></tr></table>						1	ガイダンス	16	診察・評価	2	可動域測定	17	診察・評価	3	可動域測定	18	診察・評価	4	可動域測定	19	診察・評価	5	現場での応用	20	診察・評価	6	徒手筋力テスト	21	診察・評価	7	徒手筋力テスト	22	診察・評価	8	現場での応用	23	可動域訓練	9	テスト法	24	可動域訓練	10	テスト法	25	可動域訓練	11	テスト法	26	可動域訓練	12	応用実習（現場対応力の強化）	27	可動域訓練	13	実践的ケーススタディ	28	可動域訓練	14	臨床現場に関する実践的演習	29	可動域訓練	15	試験解説	30	まとめ
1	ガイダンス	16	診察・評価																																																														
2	可動域測定	17	診察・評価																																																														
3	可動域測定	18	診察・評価																																																														
4	可動域測定	19	診察・評価																																																														
5	現場での応用	20	診察・評価																																																														
6	徒手筋力テスト	21	診察・評価																																																														
7	徒手筋力テスト	22	診察・評価																																																														
8	現場での応用	23	可動域訓練																																																														
9	テスト法	24	可動域訓練																																																														
10	テスト法	25	可動域訓練																																																														
11	テスト法	26	可動域訓練																																																														
12	応用実習（現場対応力の強化）	27	可動域訓練																																																														
13	実践的ケーススタディ	28	可動域訓練																																																														
14	臨床現場に関する実践的演習	29	可動域訓練																																																														
15	試験解説	30	まとめ																																																														
[使用テキスト・参考文献] 解剖学 改定第2版 医歯薬出版 リハビリテーション医学 改訂第2版 南江堂 機能解剖学的触診技術改訂第2版（上肢・下肢） メディカルビュー			[単位認定の方法及び基準] 出席状況、期末試験の試験結果により評価する（前期・後期での平均 60%以上の得点が必要）。 また、実技試験は認定実技予備審査の成績をもって単位取得とする。																																																														

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学演習Ⅰ		担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 3学年 前期 後期																																
[目的・狙い] 2年次に学習した各傷病について、その知識をさらに深めることを目的とする。																																					
[内容の概要] 各傷病についての原因、分類、症状、徒手の検査、鑑別診断、治療、合併症といった、臨床に応用するために必要なポイントならびに国家試験において必要な知識を学習する。																																					
[修了時の達成課題 (到達目標)] 各傷病について、国家試験に必要な知識、および臨床に応用できる知識の習得。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1. 鎖骨骨折</td><td>16. 骨盤骨骨折</td></tr><tr><td>2. 肩甲骨骨折</td><td>17. 大腿骨近位部骨折</td></tr><tr><td>3. 上腕骨近位部骨折</td><td>18. 大腿骨骨幹部骨折</td></tr><tr><td>4. 上腕骨近位部骨折</td><td>19. 大腿骨遠位部骨折</td></tr><tr><td>5. 上腕骨骨幹部骨折</td><td>20. 膝蓋骨骨折</td></tr><tr><td>6. 上腕骨遠位部骨折</td><td>21. 下腿骨近位部骨折</td></tr><tr><td>7. 前腕近位部骨折</td><td>22. 下腿骨骨幹部骨折</td></tr><tr><td>8. 前腕骨幹部骨折</td><td>23. 下腿骨疲労骨折</td></tr><tr><td>9. 前腕骨幹部骨折</td><td>24. 下腿骨遠位部脱臼骨折</td></tr><tr><td>10. 前腕遠位部骨折</td><td>25. 下腿骨遠位部脱臼骨折</td></tr><tr><td>11. 手根骨骨折</td><td>26. 足根骨骨折 (距骨・踵骨)</td></tr><tr><td>12. 中手骨骨折</td><td>27. 足根骨骨折 (その他)</td></tr><tr><td>13. 指骨骨折</td><td>28. 中足骨・趾骨骨折</td></tr><tr><td>14. 上肢骨折全般の復習</td><td>29. 下肢骨折全般の復習</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15. 試験解説</td><td>30. 試験の解説</td></tr></table>						1. 鎖骨骨折	16. 骨盤骨骨折	2. 肩甲骨骨折	17. 大腿骨近位部骨折	3. 上腕骨近位部骨折	18. 大腿骨骨幹部骨折	4. 上腕骨近位部骨折	19. 大腿骨遠位部骨折	5. 上腕骨骨幹部骨折	20. 膝蓋骨骨折	6. 上腕骨遠位部骨折	21. 下腿骨近位部骨折	7. 前腕近位部骨折	22. 下腿骨骨幹部骨折	8. 前腕骨幹部骨折	23. 下腿骨疲労骨折	9. 前腕骨幹部骨折	24. 下腿骨遠位部脱臼骨折	10. 前腕遠位部骨折	25. 下腿骨遠位部脱臼骨折	11. 手根骨骨折	26. 足根骨骨折 (距骨・踵骨)	12. 中手骨骨折	27. 足根骨骨折 (その他)	13. 指骨骨折	28. 中足骨・趾骨骨折	14. 上肢骨折全般の復習	29. 下肢骨折全般の復習	前期末試験	後期末試験	15. 試験解説	30. 試験の解説
1. 鎖骨骨折	16. 骨盤骨骨折																																				
2. 肩甲骨骨折	17. 大腿骨近位部骨折																																				
3. 上腕骨近位部骨折	18. 大腿骨骨幹部骨折																																				
4. 上腕骨近位部骨折	19. 大腿骨遠位部骨折																																				
5. 上腕骨骨幹部骨折	20. 膝蓋骨骨折																																				
6. 上腕骨遠位部骨折	21. 下腿骨近位部骨折																																				
7. 前腕近位部骨折	22. 下腿骨骨幹部骨折																																				
8. 前腕骨幹部骨折	23. 下腿骨疲労骨折																																				
9. 前腕骨幹部骨折	24. 下腿骨遠位部脱臼骨折																																				
10. 前腕遠位部骨折	25. 下腿骨遠位部脱臼骨折																																				
11. 手根骨骨折	26. 足根骨骨折 (距骨・踵骨)																																				
12. 中手骨骨折	27. 足根骨骨折 (その他)																																				
13. 指骨骨折	28. 中足骨・趾骨骨折																																				
14. 上肢骨折全般の復習	29. 下肢骨折全般の復習																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15. 試験解説	30. 試験の解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学・理論偏 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技偏 改訂第2版 南江堂			[単位認定の方法及び基準] ・出席 4/5 以上を必要とする。 ・筆記試験の評価は、前期と後期の評価を総合して評価する。合計 120 点以上 (平均 60 点以上)																																		

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 柔整学科		科目名 臨床柔道整復学演習Ⅱ		担当者 太田 浩之																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30 回	時間数(単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 3 学年 前期 後期																																	
[目的・ねらい] 柔道整復師の教育では、治療所での施術に必要な技術と知識の習得が重要となる。 臨床柔道整復学演習Ⅱでは、患者への的確な指導や施術に直結する基本的な医用画像の知識を理解し解釈する能力を身に付ける事を目的とする。																																					
[内容の概要] 医用画像の観察 [修了時の達成課題（到達目標）] 医用画像の基礎知識習得																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>< 前期 ></td><td>< 後期 ></td></tr><tr><td>1. 画像の種類（胸部レントゲン画像）</td><td>16. 国試対策</td></tr><tr><td>2. 画像の種類（胸部レントゲン画像・心臓）</td><td>17. 国試対策</td></tr><tr><td>3. 画像の種類（胸部レントゲン画像・肺）</td><td>18. 国試対策</td></tr><tr><td>4. 画像の種類（打診・気胸・肋骨骨折）</td><td>19. 国試対策</td></tr><tr><td>5. 画像の種類（胸郭の変形・肋骨骨折）</td><td>20. 国試対策</td></tr><tr><td>6. 画像の種類（気胸・無気肺・人体の区分：腹部）</td><td>21. 国試対策</td></tr><tr><td>7. 画像の種類（狭心症・心筋梗塞・心不全）</td><td>22. 国試対策</td></tr><tr><td>8. XP の基礎知識・肩関節</td><td>23. 国試対策</td></tr><tr><td>9. XP の基礎知識・肩関節・エコー観察</td><td>24. 国試対策</td></tr><tr><td>10. XP の基礎知識・肘関節</td><td>25. 国試対策像</td></tr><tr><td>11. XP の基礎知識・肘関節</td><td>26. 国試対策像</td></tr><tr><td>12. 予備</td><td>27. 国試対策</td></tr><tr><td>13. 予備</td><td>28. 予備</td></tr><tr><td>14. 予備</td><td>29. 予備</td></tr><tr><td>15. 試験解説</td><td>30. 試験解説</td></tr></table>						< 前期 >	< 後期 >	1. 画像の種類（胸部レントゲン画像）	16. 国試対策	2. 画像の種類（胸部レントゲン画像・心臓）	17. 国試対策	3. 画像の種類（胸部レントゲン画像・肺）	18. 国試対策	4. 画像の種類（打診・気胸・肋骨骨折）	19. 国試対策	5. 画像の種類（胸郭の変形・肋骨骨折）	20. 国試対策	6. 画像の種類（気胸・無気肺・人体の区分：腹部）	21. 国試対策	7. 画像の種類（狭心症・心筋梗塞・心不全）	22. 国試対策	8. XP の基礎知識・肩関節	23. 国試対策	9. XP の基礎知識・肩関節・エコー観察	24. 国試対策	10. XP の基礎知識・肘関節	25. 国試対策像	11. XP の基礎知識・肘関節	26. 国試対策像	12. 予備	27. 国試対策	13. 予備	28. 予備	14. 予備	29. 予備	15. 試験解説	30. 試験解説
< 前期 >	< 後期 >																																				
1. 画像の種類（胸部レントゲン画像）	16. 国試対策																																				
2. 画像の種類（胸部レントゲン画像・心臓）	17. 国試対策																																				
3. 画像の種類（胸部レントゲン画像・肺）	18. 国試対策																																				
4. 画像の種類（打診・気胸・肋骨骨折）	19. 国試対策																																				
5. 画像の種類（胸郭の変形・肋骨骨折）	20. 国試対策																																				
6. 画像の種類（気胸・無気肺・人体の区分：腹部）	21. 国試対策																																				
7. 画像の種類（狭心症・心筋梗塞・心不全）	22. 国試対策																																				
8. XP の基礎知識・肩関節	23. 国試対策																																				
9. XP の基礎知識・肩関節・エコー観察	24. 国試対策																																				
10. XP の基礎知識・肘関節	25. 国試対策像																																				
11. XP の基礎知識・肘関節	26. 国試対策像																																				
12. 予備	27. 国試対策																																				
13. 予備	28. 予備																																				
14. 予備	29. 予備																																				
15. 試験解説	30. 試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] ・ 施術の適応と医用画像の理解 ・ 柔道整復学・理論編 ・ 整形外科学 ・ 一般臨床医学			[単位認定の方法及び基準] ・ 試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。 （実技試験：60 点以上合格） ・ 授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。																																		

I G L 医療福祉専門学校

学科名 柔整学科		科目名 総合演習ⅠA		担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] 本授業で扱う疾患については、柔道整復師が行う保存療法では後遺障害などを残存させる可能性が高いものが多い。よって、基礎理論習得は基より、柔道整復師による施術の適否の判断能力を身につけていくことも目標としたい。また、基礎的な考え方を含め、臨床現場および国家試験に対応できる知識・ポイントの習得も目的とする。																																					
[内容の概要] 下肢の骨折は合併症や重症度の関係や、荷重関節として正確な整復が必要であることから、柔道整復施術所で初期対応として遭遇する可能性は少ないが、後療・リハビリ現場では柔道整復師が施術にあたることもあるため、各傷病の特徴に加え、そこでの注意点などについても述べていくこととする。																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 各傷病についての理解を深め、臨床に応用できる。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1. 骨盤骨骨折</td><td>16. 下腿骨近位部の骨折</td></tr><tr><td>2. 骨盤骨骨折</td><td>17. 下腿骨近位部の骨折</td></tr><tr><td>3. 骨盤骨骨折</td><td>18. 下腿骨幹部の骨折</td></tr><tr><td>4. 大腿骨近位部の骨折</td><td>19. 下腿骨幹部の骨折</td></tr><tr><td>5. 大腿骨近位部の骨折</td><td>20. 下腿骨幹部の骨折</td></tr><tr><td>6. 大腿骨近位部の骨折</td><td>21. 下腿骨遠位部の骨折</td></tr><tr><td>7. 大腿骨近位部の骨折</td><td>22. 下腿骨遠位部の骨折</td></tr><tr><td>8. 大腿骨幹部の骨折</td><td>23. 下腿骨遠位部の骨折</td></tr><tr><td>9. 大腿骨幹部の骨折</td><td>24. 足根骨部の骨折</td></tr><tr><td>10. 大腿骨遠位部の骨折</td><td>25. 足根骨部の骨折</td></tr><tr><td>11. 大腿骨遠位部の骨折</td><td>26. 足根骨の骨折</td></tr><tr><td>12. 大腿骨遠位部の骨折</td><td>27. 中足骨の骨折</td></tr><tr><td>13. 膝蓋骨骨折</td><td>28. 中足骨の骨折</td></tr><tr><td>14. 膝蓋骨骨折</td><td>29. 趾骨の骨折</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15. 試験解説</td><td>30. 試験の解説</td></tr></table>						1. 骨盤骨骨折	16. 下腿骨近位部の骨折	2. 骨盤骨骨折	17. 下腿骨近位部の骨折	3. 骨盤骨骨折	18. 下腿骨幹部の骨折	4. 大腿骨近位部の骨折	19. 下腿骨幹部の骨折	5. 大腿骨近位部の骨折	20. 下腿骨幹部の骨折	6. 大腿骨近位部の骨折	21. 下腿骨遠位部の骨折	7. 大腿骨近位部の骨折	22. 下腿骨遠位部の骨折	8. 大腿骨幹部の骨折	23. 下腿骨遠位部の骨折	9. 大腿骨幹部の骨折	24. 足根骨部の骨折	10. 大腿骨遠位部の骨折	25. 足根骨部の骨折	11. 大腿骨遠位部の骨折	26. 足根骨の骨折	12. 大腿骨遠位部の骨折	27. 中足骨の骨折	13. 膝蓋骨骨折	28. 中足骨の骨折	14. 膝蓋骨骨折	29. 趾骨の骨折	前期末試験	後期末試験	15. 試験解説	30. 試験の解説
1. 骨盤骨骨折	16. 下腿骨近位部の骨折																																				
2. 骨盤骨骨折	17. 下腿骨近位部の骨折																																				
3. 骨盤骨骨折	18. 下腿骨幹部の骨折																																				
4. 大腿骨近位部の骨折	19. 下腿骨幹部の骨折																																				
5. 大腿骨近位部の骨折	20. 下腿骨幹部の骨折																																				
6. 大腿骨近位部の骨折	21. 下腿骨遠位部の骨折																																				
7. 大腿骨近位部の骨折	22. 下腿骨遠位部の骨折																																				
8. 大腿骨幹部の骨折	23. 下腿骨遠位部の骨折																																				
9. 大腿骨幹部の骨折	24. 足根骨部の骨折																																				
10. 大腿骨遠位部の骨折	25. 足根骨部の骨折																																				
11. 大腿骨遠位部の骨折	26. 足根骨の骨折																																				
12. 大腿骨遠位部の骨折	27. 中足骨の骨折																																				
13. 膝蓋骨骨折	28. 中足骨の骨折																																				
14. 膝蓋骨骨折	29. 趾骨の骨折																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15. 試験解説	30. 試験の解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学・理論偏 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技偏 改訂第2版 南江堂			[単位認定の方法及び基準] ・出席 4/5 以上を必要とする。 ・筆記試験の評価は、前期と後期の評価を総合して評価する。合計 120 点以上（平均 60 点以上）で単位認定とする。																																		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

学科名 柔整学科		科目名 総合演習 I B		担当者 (前期) 埜 (後期) 太田																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数 6 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] 1年次に学んだ解剖学をもとに、正しく触診する技術を習得する。また、臨床現場および国家試験に対応できる力を養う。柔道整復学の各論に入り、臨床に対応する知識を習得する。 前期：触診実技 後期：講義・実技																																					
[内容の概要] 前期：解剖学を復習するとともに触診実技を行う。 後期：軟部組織損傷の概念・軟部組織損傷に対する徒手検査法																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 前期：人体の構造や形態を理解し、正しく触れることができる。 後期：軟部組織損傷の知識習得並びに徒手検査法の理解																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 上肢の触診</td><td>16 股関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>2 上肢の触診</td><td>17 股関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>3 上肢の触診</td><td>18 股関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>4 上肢の触診</td><td>19 大腿部の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>5 上肢の触診</td><td>20 大腿部の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>6 下肢の触診</td><td>21 膝関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>7 下肢の触診</td><td>22 膝関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>8 下肢の触診</td><td>23 膝関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>9 下肢の触診</td><td>24 膝関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>10 下肢の触診</td><td>25 膝関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>11 体幹の触診</td><td>26 膝関節の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>12 体幹の触診</td><td>27 頸部の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>13 体幹の触診</td><td>28 背部の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>14 まとめ</td><td>29 腰部の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>(期末試験)</td><td>(期末試験)</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>						1 上肢の触診	16 股関節の軟部組織損傷	2 上肢の触診	17 股関節の軟部組織損傷	3 上肢の触診	18 股関節の軟部組織損傷	4 上肢の触診	19 大腿部の軟部組織損傷	5 上肢の触診	20 大腿部の軟部組織損傷	6 下肢の触診	21 膝関節の軟部組織損傷	7 下肢の触診	22 膝関節の軟部組織損傷	8 下肢の触診	23 膝関節の軟部組織損傷	9 下肢の触診	24 膝関節の軟部組織損傷	10 下肢の触診	25 膝関節の軟部組織損傷	11 体幹の触診	26 膝関節の軟部組織損傷	12 体幹の触診	27 頸部の軟部組織損傷	13 体幹の触診	28 背部の軟部組織損傷	14 まとめ	29 腰部の軟部組織損傷	(期末試験)	(期末試験)	15 試験解説	30 試験解説
1 上肢の触診	16 股関節の軟部組織損傷																																				
2 上肢の触診	17 股関節の軟部組織損傷																																				
3 上肢の触診	18 股関節の軟部組織損傷																																				
4 上肢の触診	19 大腿部の軟部組織損傷																																				
5 上肢の触診	20 大腿部の軟部組織損傷																																				
6 下肢の触診	21 膝関節の軟部組織損傷																																				
7 下肢の触診	22 膝関節の軟部組織損傷																																				
8 下肢の触診	23 膝関節の軟部組織損傷																																				
9 下肢の触診	24 膝関節の軟部組織損傷																																				
10 下肢の触診	25 膝関節の軟部組織損傷																																				
11 体幹の触診	26 膝関節の軟部組織損傷																																				
12 体幹の触診	27 頸部の軟部組織損傷																																				
13 体幹の触診	28 背部の軟部組織損傷																																				
14 まとめ	29 腰部の軟部組織損傷																																				
(期末試験)	(期末試験)																																				
15 試験解説	30 試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」改訂第2版 「柔道整復学・理論編」改訂第7版 青木隆明監修 運動療法のための機能解剖学的触診技術第2版			[単位認定の方法及び基準] 出席 4/5 を必要とする。 期末試験等の成績を総合し、60 点以上を合格とする。																																		

学科名 柔整学科		科目名 総合演習Ⅱ		担当者 太田 浩之	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数 (単位数) 3 0 時間 (1 単位)	配当学年・時期 3 学年 前期 後期	
[目的・ねらい] 2 年次の履修科目の般臨床医学を復習し、知識習得度を向上させる。					
[内容の概要] 一般臨床医学					
[修了時の達成課題 (到達目標)] 柔道整復師国家試験合格レベルにおける知識を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 循環器疾患 2. 肺呼吸器疾患 3. その他の疾患 4. 神経疾患 5. 膠原病 6. 消化器・腫瘍 7. 代謝・内分泌疾患 8. 血液疾患 9. 生命徴候 10. 予備 11. 予備 12. 予備 13. 予備 14. 予備 15. 習得状況の確認					
[使用テキスト・参考文献] ・ 柔道整復学・理論編 ・ 一般臨床医学			[単位認定の方法及び基準] ・ 出席 4/5 以上を必要とする。 ・ 期末試験において 60 点以上を合格とする。		

学科名 柔整学科		科目名 包帯固定学		担当者 柳楽 美作男																																																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期																																																																	
[目的・ねらい] 実技を通じて柔道整復術の基本である包帯固定法を身につける。																																																																					
[内容の概要] 軟性材料・硬性材料の一通りの扱いを修得する。また、教科書等には掲載されていないが、施術所等で使用している固定材料（弾性包帯等）の取り扱いも修得する。（各回「基本包帯法」内）																																																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 巻軸包帯による基本包帯法と、代表的な冠名包帯の習得を目標とする。また、基本包帯法を応用して身体の各部位に適した固定と、硬性材料を併用した固定ができるようになることを目標とする。																																																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>ガイダンス・固定とは</td><td>16</td><td>冠名包帯法まとめ</td></tr><tr><td>2</td><td>軟性材料と硬性材料・良肢位</td><td>17</td><td>硬性材料について</td></tr><tr><td>3</td><td>巻軸包帯の扱い</td><td>18</td><td>金属副子</td></tr><tr><td>4</td><td>基本包帯法</td><td>19</td><td>金属副子</td></tr><tr><td>5</td><td>基本包帯法</td><td>20</td><td>金属副子</td></tr><tr><td>6</td><td>基本包帯法</td><td>21</td><td>厚紙副子</td></tr><tr><td>7</td><td>基本包帯法</td><td>22</td><td>厚紙副子</td></tr><tr><td>8</td><td>基本包帯法</td><td>23</td><td>すだれ副子</td></tr><tr><td>9</td><td>基本包帯法</td><td>24</td><td>すだれ副子</td></tr><tr><td>10</td><td>基本包帯法</td><td>25</td><td>ギプス包帯</td></tr><tr><td>11</td><td>基本包帯法振り返り</td><td>26</td><td>ギプス包帯</td></tr><tr><td>12</td><td>冠名包帯法</td><td>27</td><td>冠名包帯・硬性材料振り返り</td></tr><tr><td>13</td><td>冠名包帯法</td><td>28</td><td>テーピング</td></tr><tr><td>14</td><td>冠名包帯法</td><td>29</td><td>テーピング</td></tr><tr><td></td><td>前期末試験</td><td></td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15</td><td>前期まとめ・解説</td><td>30</td><td>まとめ/解説</td></tr></table>						1	ガイダンス・固定とは	16	冠名包帯法まとめ	2	軟性材料と硬性材料・良肢位	17	硬性材料について	3	巻軸包帯の扱い	18	金属副子	4	基本包帯法	19	金属副子	5	基本包帯法	20	金属副子	6	基本包帯法	21	厚紙副子	7	基本包帯法	22	厚紙副子	8	基本包帯法	23	すだれ副子	9	基本包帯法	24	すだれ副子	10	基本包帯法	25	ギプス包帯	11	基本包帯法振り返り	26	ギプス包帯	12	冠名包帯法	27	冠名包帯・硬性材料振り返り	13	冠名包帯法	28	テーピング	14	冠名包帯法	29	テーピング		前期末試験		後期末試験	15	前期まとめ・解説	30	まとめ/解説
1	ガイダンス・固定とは	16	冠名包帯法まとめ																																																																		
2	軟性材料と硬性材料・良肢位	17	硬性材料について																																																																		
3	巻軸包帯の扱い	18	金属副子																																																																		
4	基本包帯法	19	金属副子																																																																		
5	基本包帯法	20	金属副子																																																																		
6	基本包帯法	21	厚紙副子																																																																		
7	基本包帯法	22	厚紙副子																																																																		
8	基本包帯法	23	すだれ副子																																																																		
9	基本包帯法	24	すだれ副子																																																																		
10	基本包帯法	25	ギプス包帯																																																																		
11	基本包帯法振り返り	26	ギプス包帯																																																																		
12	冠名包帯法	27	冠名包帯・硬性材料振り返り																																																																		
13	冠名包帯法	28	テーピング																																																																		
14	冠名包帯法	29	テーピング																																																																		
	前期末試験		後期末試験																																																																		
15	前期まとめ・解説	30	まとめ/解説																																																																		
[使用テキスト・参考文献] 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学改訂第2版 南江堂			[単位認定の方法及び基準] 前・後期それぞれ授業回数の4/5以上出席し、実技・筆記試験結果により評価する。 いずれの試験も、前期末試験と後期末試験の合計120円（平均60点）以上で合格とする。 単位取得には実技・筆記試験のいずれも合格する必要がある。																																																																		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復実技Ⅰ		担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] ・ 人体、特に運動器の基礎解剖を理解し、医療系科目を学ぶための基礎を作る。 ・ 体表から大まかな部位を把握でき、骨・筋・靱帯などを正しく触れることができるようにする。																																					
[内容の概要] ・ 解剖学ⅠB(解剖学p21～122)の基礎的内容をもとに、柔道整復実技に必要な見る・触れるための知識ならびに技術を学習する。																																					
[修了時の達成課題(到達目標)] ・ 体表から観察で、おおよその身体組織の推測ができ、触診でランドマークとなる骨や、主要な筋を触れることができる。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 解剖学総論(用語) 骨格系総論①</td><td>16 筋系総論 頭部の筋</td></tr><tr><td>2 骨格系総論②(関節) 脊柱と椎骨①</td><td>17 頸部の筋</td></tr><tr><td>3 脊柱と椎骨② 胸郭①</td><td>18 胸部の筋 呼吸運動</td></tr><tr><td>4 胸郭② 上肢骨(肩甲骨・鎖骨)</td><td>19 腹部の筋</td></tr><tr><td>5 上肢骨(上腕骨・橈骨・尺骨)</td><td>20 背部の筋</td></tr><tr><td>6 上肢骨(手根骨・指) 上肢(関節)</td><td>21 上肢の筋①(上肢帯の筋)</td></tr><tr><td>7 予備(進度により決定)</td><td>22 予備(進度により決定)</td></tr><tr><td>8 下肢骨(寛骨・骨盤)</td><td>23 上肢の筋②(上腕の筋・前腕の筋)</td></tr><tr><td>9 下肢骨(大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨)</td><td>24 上肢の筋③(前腕の筋・手の筋)</td></tr><tr><td>10 下肢骨(足根骨・趾) 下肢(関節)</td><td>25 下肢の筋①(内・外寛骨筋)</td></tr><tr><td>11 頭蓋骨①</td><td>26 下肢の筋②(大腿の筋)</td></tr><tr><td>12 頭蓋骨②</td><td>27 下肢の筋③(下腿の筋)</td></tr><tr><td>13 頭蓋骨③ 顎関節</td><td>28 下肢の筋④(下腿の筋・足の筋)</td></tr><tr><td>14 まとめ</td><td>29 まとめ</td></tr><tr><td>(期末試験)</td><td>(期末試験)</td></tr><tr><td>15 期末試験解説</td><td>30 期末試験解説</td></tr></table>						1 解剖学総論(用語) 骨格系総論①	16 筋系総論 頭部の筋	2 骨格系総論②(関節) 脊柱と椎骨①	17 頸部の筋	3 脊柱と椎骨② 胸郭①	18 胸部の筋 呼吸運動	4 胸郭② 上肢骨(肩甲骨・鎖骨)	19 腹部の筋	5 上肢骨(上腕骨・橈骨・尺骨)	20 背部の筋	6 上肢骨(手根骨・指) 上肢(関節)	21 上肢の筋①(上肢帯の筋)	7 予備(進度により決定)	22 予備(進度により決定)	8 下肢骨(寛骨・骨盤)	23 上肢の筋②(上腕の筋・前腕の筋)	9 下肢骨(大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨)	24 上肢の筋③(前腕の筋・手の筋)	10 下肢骨(足根骨・趾) 下肢(関節)	25 下肢の筋①(内・外寛骨筋)	11 頭蓋骨①	26 下肢の筋②(大腿の筋)	12 頭蓋骨②	27 下肢の筋③(下腿の筋)	13 頭蓋骨③ 顎関節	28 下肢の筋④(下腿の筋・足の筋)	14 まとめ	29 まとめ	(期末試験)	(期末試験)	15 期末試験解説	30 期末試験解説
1 解剖学総論(用語) 骨格系総論①	16 筋系総論 頭部の筋																																				
2 骨格系総論②(関節) 脊柱と椎骨①	17 頸部の筋																																				
3 脊柱と椎骨② 胸郭①	18 胸部の筋 呼吸運動																																				
4 胸郭② 上肢骨(肩甲骨・鎖骨)	19 腹部の筋																																				
5 上肢骨(上腕骨・橈骨・尺骨)	20 背部の筋																																				
6 上肢骨(手根骨・指) 上肢(関節)	21 上肢の筋①(上肢帯の筋)																																				
7 予備(進度により決定)	22 予備(進度により決定)																																				
8 下肢骨(寛骨・骨盤)	23 上肢の筋②(上腕の筋・前腕の筋)																																				
9 下肢骨(大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨)	24 上肢の筋③(前腕の筋・手の筋)																																				
10 下肢骨(足根骨・趾) 下肢(関節)	25 下肢の筋①(内・外寛骨筋)																																				
11 頭蓋骨①	26 下肢の筋②(大腿の筋)																																				
12 頭蓋骨②	27 下肢の筋③(下腿の筋)																																				
13 頭蓋骨③ 顎関節	28 下肢の筋④(下腿の筋・足の筋)																																				
14 まとめ	29 まとめ																																				
(期末試験)	(期末試験)																																				
15 期末試験解説	30 期末試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 解剖学 改訂第2版 (全国柔道整復学校協会監修、医歯薬出版)			[単位認定の方法及び基準] ・ 出席 4/5 以上を必要とする。 ・ 定期試験と授業態度等も含め総合的に判断し 60 点以上を合格とする。																																		

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技ⅡA		担当者 森山 嵩大
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] ・ 下肢の軟部組織損傷についての評価法、治療法の理解			
[内容の概要] (柔道整復学・理論編P380～P405)			
1. 下肢の軟部組織損傷（股関節、大腿部、膝関節、下腿、足趾）			
2. 体幹の軟部組織損傷（頸部、胸・背部、腰部）			
[修了時の達成課題（到達目標）] ・ 他外傷または疾患との鑑別と応急処置の習得			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			
＜前期＞		＜後期＞	
1. 股関節の軟部組織損傷		1. 足関節の軟部組織損傷	
2. 股関節の軟部組織損傷		2. 足関節の軟部組織損傷	
3. 股関節の軟部組織損傷		3. 足関節の軟部組織損傷	
4. 大腿部の軟部組織損傷		4. 足趾の軟部組織損傷	
5. 大腿部の軟部組織損傷		5. 足趾の軟部組織損傷	
6. 膝関節の軟部組織損傷		6. 頸部の軟部組織損傷	
7. 膝関節の軟部組織損傷		7. 頸部の軟部組織損傷	
8. 膝関節の軟部組織損傷		8. 頸部の軟部組織損傷	
9. 膝関節の軟部組織損傷		9. 胸・背部の軟部組織損傷	
10. 膝関節の軟部組織損傷		10. 胸・背部の軟部組織損傷	
11. 膝関節の軟部組織損傷		11. 胸・背部の軟部組織損傷	
12. 下腿部の軟部組織損傷		12. 腰部の軟部組織損傷	
13. 下腿部の軟部組織損傷		13. 腰部の軟部組織損傷	
14. 下腿部の軟部組織損傷		14. 腰部の軟部組織損傷	
15. 試験解説		15. 試験解説	
[使用テキスト・参考文献] ・ 柔道整復学（理論編） ・ 柔道整復学（実技編）		[単位認定の方法及び基準] ・ 実技試験、筆記試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。 (実技試験・筆記試験：60 点以上合格) ・ 授業時数の 4/5 以上 出席を必要とする。	

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復実技Ⅱ B		担当者 岡 智宏																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																	
[目的・ねらい] 柔道整復学の基礎知識をもとに、上肢（上腕部・肘関節部・前腕部）の損傷についての整復法、固定法、検査法などの技術と知識の向上を目指す。																																					
[内容の概要] 各損傷について実技を交えて講義する。																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] 上肢（上腕部・肘関節部・前腕部）の損傷について正しく理解し、整復固定やその他必要な検査ができる。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 上腕部骨骨幹部骨折</td><td>16 肘関節の脱臼（両骨）</td></tr><tr><td>2 上腕部骨骨幹部骨折</td><td>17 肘関節の脱臼（橈骨単独）</td></tr><tr><td>3 上腕部骨骨幹部骨折（ミッテルドルフ固定）</td><td>18 肘関節の脱臼（肘内障）</td></tr><tr><td>4 上腕骨遠位部骨折（顆上骨折）</td><td>19 肘関節の脱臼（整復実技）</td></tr><tr><td>5 上腕骨遠位部骨折（外顆骨折）</td><td>20 肘関節の脱臼（整復実技）</td></tr><tr><td>6 上腕骨遠位部骨折（内側上顆骨折）</td><td>21 肘関節部の軟部組織損傷（靱帯・PLRI）</td></tr><tr><td>7 前腕骨近位部骨折（橈骨近位端部骨折）</td><td>22 肘関節部の軟部組織損傷（野球肘）</td></tr><tr><td>8 前腕骨近位部骨折（肘頭骨折）</td><td>23 肘関節部の軟部組織損傷（テニス肘）</td></tr><tr><td>9 前腕部骨幹部骨折（橈骨骨幹部）</td><td>24 肘関節部の軟部組織損傷（検査法）</td></tr><tr><td>10 前腕部骨幹部骨折（ガレアジ骨折）</td><td>25 肘関節部の軟部組織損傷（その他の疾患）</td></tr><tr><td>11 前腕部骨幹部骨折（尺骨骨折）</td><td>26 前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント）</td></tr><tr><td>12 前腕部骨幹部骨折（モンテギア骨折）</td><td>27 前腕部の軟部組織損傷（腱交叉症候群）</td></tr><tr><td>13 前腕部骨幹部骨折（両骨）</td><td>28 肘部の軟部組織損傷（診察実技）</td></tr><tr><td>14 上腕部骨骨幹部骨折（ミッテルドルフ固定）</td><td>29 肘部の軟部組織損傷（診察実技）</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>						1 上腕部骨骨幹部骨折	16 肘関節の脱臼（両骨）	2 上腕部骨骨幹部骨折	17 肘関節の脱臼（橈骨単独）	3 上腕部骨骨幹部骨折（ミッテルドルフ固定）	18 肘関節の脱臼（肘内障）	4 上腕骨遠位部骨折（顆上骨折）	19 肘関節の脱臼（整復実技）	5 上腕骨遠位部骨折（外顆骨折）	20 肘関節の脱臼（整復実技）	6 上腕骨遠位部骨折（内側上顆骨折）	21 肘関節部の軟部組織損傷（靱帯・PLRI）	7 前腕骨近位部骨折（橈骨近位端部骨折）	22 肘関節部の軟部組織損傷（野球肘）	8 前腕骨近位部骨折（肘頭骨折）	23 肘関節部の軟部組織損傷（テニス肘）	9 前腕部骨幹部骨折（橈骨骨幹部）	24 肘関節部の軟部組織損傷（検査法）	10 前腕部骨幹部骨折（ガレアジ骨折）	25 肘関節部の軟部組織損傷（その他の疾患）	11 前腕部骨幹部骨折（尺骨骨折）	26 前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント）	12 前腕部骨幹部骨折（モンテギア骨折）	27 前腕部の軟部組織損傷（腱交叉症候群）	13 前腕部骨幹部骨折（両骨）	28 肘部の軟部組織損傷（診察実技）	14 上腕部骨骨幹部骨折（ミッテルドルフ固定）	29 肘部の軟部組織損傷（診察実技）	前期末試験	後期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 上腕部骨骨幹部骨折	16 肘関節の脱臼（両骨）																																				
2 上腕部骨骨幹部骨折	17 肘関節の脱臼（橈骨単独）																																				
3 上腕部骨骨幹部骨折（ミッテルドルフ固定）	18 肘関節の脱臼（肘内障）																																				
4 上腕骨遠位部骨折（顆上骨折）	19 肘関節の脱臼（整復実技）																																				
5 上腕骨遠位部骨折（外顆骨折）	20 肘関節の脱臼（整復実技）																																				
6 上腕骨遠位部骨折（内側上顆骨折）	21 肘関節部の軟部組織損傷（靱帯・PLRI）																																				
7 前腕骨近位部骨折（橈骨近位端部骨折）	22 肘関節部の軟部組織損傷（野球肘）																																				
8 前腕骨近位部骨折（肘頭骨折）	23 肘関節部の軟部組織損傷（テニス肘）																																				
9 前腕部骨幹部骨折（橈骨骨幹部）	24 肘関節部の軟部組織損傷（検査法）																																				
10 前腕部骨幹部骨折（ガレアジ骨折）	25 肘関節部の軟部組織損傷（その他の疾患）																																				
11 前腕部骨幹部骨折（尺骨骨折）	26 前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント）																																				
12 前腕部骨幹部骨折（モンテギア骨折）	27 前腕部の軟部組織損傷（腱交叉症候群）																																				
13 前腕部骨幹部骨折（両骨）	28 肘部の軟部組織損傷（診察実技）																																				
14 上腕部骨骨幹部骨折（ミッテルドルフ固定）	29 肘部の軟部組織損傷（診察実技）																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15 試験解説	30 試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学・理論偏 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技偏 改訂第2版 南江堂 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 出席 4/5 以上を必要とする。 ①筆記試験の評価は前期と後期の評価を総合して評価する。合計 120 点以上（平均 60 点以上） ②実技試験の評価は前期と後期を総合して評価する。合計 120 点以上（平均 60 点以上） 単位取得には①と②の双方の合格を必要とする。																																		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復実技ⅡC		担当者 柳樂美作男																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期																																	
[目的・ねらい] ・ 上肢の損傷のうち手関節より遠位の損傷についての評価法、治療法の理解																																					
[内容の概要] ・ 上腕骨遠位、手根部、中手骨、指骨の骨折・脱臼・軟部組織損傷																																					
[修了時の達成課題 (到達目標)] ・ 外傷または疾患との鑑別と整復・固定を実施できる。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1. 前腕遠位の機能解剖</td><td>16. 手指の機能解剖</td></tr><tr><td>2. 上腕骨遠位端骨折</td><td>17. 中手骨骨折</td></tr><tr><td>3. 上腕骨遠位端骨折</td><td>18. 中手骨骨折</td></tr><tr><td>4. コーレス骨折</td><td>19. 前腕骨近位端骨折</td></tr><tr><td>5. コーレス骨折</td><td>20. 前腕骨骨幹部骨折</td></tr><tr><td>6. コーレス骨折</td><td>21. 指骨骨折</td></tr><tr><td>7. コーレス骨折</td><td>22. 指骨骨折</td></tr><tr><td>8. 手根骨骨折</td><td>23. MP関節・IP関節脱臼</td></tr><tr><td>9. 手根骨骨折・上腕骨遠位端骨折</td><td>24. MP関節・IP関節脱臼</td></tr><tr><td>10. 手関節の脱臼</td><td>25. MP関節・IP関節脱臼</td></tr><tr><td>11. 実技まとめ授業</td><td>26. 実技まとめ授業</td></tr><tr><td>12. 手根骨の脱臼</td><td>27. 手と手指の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>13. 手関節の軟部組織損傷</td><td>28. 手と手指の軟部組織損傷</td></tr><tr><td>14. 手関節の軟部組織損傷</td><td>29. 損傷以外の疾患</td></tr><tr><td>前期期末試験</td><td>後期期末試験</td></tr><tr><td>15. ふりかえり・まとめ</td><td>30. ふりかえり・まとめ</td></tr></table>						1. 前腕遠位の機能解剖	16. 手指の機能解剖	2. 上腕骨遠位端骨折	17. 中手骨骨折	3. 上腕骨遠位端骨折	18. 中手骨骨折	4. コーレス骨折	19. 前腕骨近位端骨折	5. コーレス骨折	20. 前腕骨骨幹部骨折	6. コーレス骨折	21. 指骨骨折	7. コーレス骨折	22. 指骨骨折	8. 手根骨骨折	23. MP関節・IP関節脱臼	9. 手根骨骨折・上腕骨遠位端骨折	24. MP関節・IP関節脱臼	10. 手関節の脱臼	25. MP関節・IP関節脱臼	11. 実技まとめ授業	26. 実技まとめ授業	12. 手根骨の脱臼	27. 手と手指の軟部組織損傷	13. 手関節の軟部組織損傷	28. 手と手指の軟部組織損傷	14. 手関節の軟部組織損傷	29. 損傷以外の疾患	前期期末試験	後期期末試験	15. ふりかえり・まとめ	30. ふりかえり・まとめ
1. 前腕遠位の機能解剖	16. 手指の機能解剖																																				
2. 上腕骨遠位端骨折	17. 中手骨骨折																																				
3. 上腕骨遠位端骨折	18. 中手骨骨折																																				
4. コーレス骨折	19. 前腕骨近位端骨折																																				
5. コーレス骨折	20. 前腕骨骨幹部骨折																																				
6. コーレス骨折	21. 指骨骨折																																				
7. コーレス骨折	22. 指骨骨折																																				
8. 手根骨骨折	23. MP関節・IP関節脱臼																																				
9. 手根骨骨折・上腕骨遠位端骨折	24. MP関節・IP関節脱臼																																				
10. 手関節の脱臼	25. MP関節・IP関節脱臼																																				
11. 実技まとめ授業	26. 実技まとめ授業																																				
12. 手根骨の脱臼	27. 手と手指の軟部組織損傷																																				
13. 手関節の軟部組織損傷	28. 手と手指の軟部組織損傷																																				
14. 手関節の軟部組織損傷	29. 損傷以外の疾患																																				
前期期末試験	後期期末試験																																				
15. ふりかえり・まとめ	30. ふりかえり・まとめ																																				
[使用テキスト・参考文献] ・ 柔道整復学 (理論編) ・ 柔道整復学 (実技編)			[単位認定の方法及び基準] 前・後期それぞれ授業回数の 4/5 以上出席し、前期および後期に実技試験・筆記試験をそれぞれ行い、実技試験前後期平均 60 点以上かつ筆記試験前後期平均 60 点以上のものを合格とする。																																		

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技ⅢA		担当者 柳樂（前期）太田（後期）																																
種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 （ 2 単位）	配当学年・時期 3 学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] ・ 柔道整復師として必要な技能と知識の習得と、国家試験に備えて知識の整理と習熟度の確認																																			
[内容の概要] ・ 前期：体幹および上肢軟部組織損傷全般・必修問題 ・ 後期：下肢軟部組織損傷全般・国家試験対策																																			
[修了時の達成課題（到達目標）] ・ 上肢・下肢の軟部組織損傷の復習および整理 ・ 臨床上必要な知識を確認する ・ 必修問題をふくみ国家試験合格レベルに到達する																																			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1. 国試問題にみる軟部組織損傷①</td><td>16. 認定実技対策（柔道）①</td></tr><tr><td>2. 国試験題にみる軟部組織損傷②</td><td>17. 認定実技対策（柔道）②</td></tr><tr><td>3. 国試問題にみる軟部組織損傷③</td><td>18. 認定実技対策（柔道）③</td></tr><tr><td>4. 国試問題にみる軟部組織損傷④</td><td>19. 認定実技対策（柔道）④</td></tr><tr><td>5. 国試長文問題にみる軟部組織損傷①</td><td>20. 認定実技対策（柔道）⑤</td></tr><tr><td>6. 国試長文問題にみる軟部組織損傷②</td><td>21. 認定実技対策（柔道）⑥</td></tr><tr><td>7. 国試長文問題にみる軟部組織損傷③</td><td>22. 認定実技対策（柔道）⑦</td></tr><tr><td>8. 国試長文問題にみる軟部組織損傷④</td><td>23. 整形外科国試対策①</td></tr><tr><td>9. 国試長文問題にみる軟部組織損傷⑤</td><td>24. 整形外科国試対策②</td></tr><tr><td>10. 必修問題練習①</td><td>25. 整形外科国試対策③</td></tr><tr><td>11. 必修問題練習②</td><td>26. 整形外科国試対策④</td></tr><tr><td>12. 必修問題練習③</td><td>27. 整形外科国試対策⑤</td></tr><tr><td>13. 必修問題練習④</td><td>28. 整形外科国試対策⑥</td></tr><tr><td>14. 必修問題練習⑤</td><td>29. 整形外科国試対策⑦</td></tr><tr><td>前期期末試験</td><td>後期期末試験</td></tr><tr><td>15. 解答・解説</td><td>30. 解答・解説</td></tr></table>				1. 国試問題にみる軟部組織損傷①	16. 認定実技対策（柔道）①	2. 国試験題にみる軟部組織損傷②	17. 認定実技対策（柔道）②	3. 国試問題にみる軟部組織損傷③	18. 認定実技対策（柔道）③	4. 国試問題にみる軟部組織損傷④	19. 認定実技対策（柔道）④	5. 国試長文問題にみる軟部組織損傷①	20. 認定実技対策（柔道）⑤	6. 国試長文問題にみる軟部組織損傷②	21. 認定実技対策（柔道）⑥	7. 国試長文問題にみる軟部組織損傷③	22. 認定実技対策（柔道）⑦	8. 国試長文問題にみる軟部組織損傷④	23. 整形外科国試対策①	9. 国試長文問題にみる軟部組織損傷⑤	24. 整形外科国試対策②	10. 必修問題練習①	25. 整形外科国試対策③	11. 必修問題練習②	26. 整形外科国試対策④	12. 必修問題練習③	27. 整形外科国試対策⑤	13. 必修問題練習④	28. 整形外科国試対策⑥	14. 必修問題練習⑤	29. 整形外科国試対策⑦	前期期末試験	後期期末試験	15. 解答・解説	30. 解答・解説
1. 国試問題にみる軟部組織損傷①	16. 認定実技対策（柔道）①																																		
2. 国試験題にみる軟部組織損傷②	17. 認定実技対策（柔道）②																																		
3. 国試問題にみる軟部組織損傷③	18. 認定実技対策（柔道）③																																		
4. 国試問題にみる軟部組織損傷④	19. 認定実技対策（柔道）④																																		
5. 国試長文問題にみる軟部組織損傷①	20. 認定実技対策（柔道）⑤																																		
6. 国試長文問題にみる軟部組織損傷②	21. 認定実技対策（柔道）⑥																																		
7. 国試長文問題にみる軟部組織損傷③	22. 認定実技対策（柔道）⑦																																		
8. 国試長文問題にみる軟部組織損傷④	23. 整形外科国試対策①																																		
9. 国試長文問題にみる軟部組織損傷⑤	24. 整形外科国試対策②																																		
10. 必修問題練習①	25. 整形外科国試対策③																																		
11. 必修問題練習②	26. 整形外科国試対策④																																		
12. 必修問題練習③	27. 整形外科国試対策⑤																																		
13. 必修問題練習④	28. 整形外科国試対策⑥																																		
14. 必修問題練習⑤	29. 整形外科国試対策⑦																																		
前期期末試験	後期期末試験																																		
15. 解答・解説	30. 解答・解説																																		
[使用テキスト・参考文献] ・ 柔道整復学（理論編） ・ 柔道整復学（実技編） ・ 整形外科学		[単位認定の方法及び基準] ・ 筆記試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。 （筆記試験：60 点以上合格） ・ 授業時数の4/5以上 出席を必要とする。																																	

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復実技ⅢB		担当者 森山 嵩大																																	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 3 学年 前期 後期																																
[目的・ねらい] ・脱臼の知識の修得と治療技術の向上を目標とする。 ・国家試験に向けての知識向上を目標とする。																																					
[内容の概要] ・下肢脱臼中心に脱臼全般。（骨折、軟部組織損傷の知識についても鑑別に必要なものを含む） ・国家試験対策																																					
[修了時の達成課題（到達目標）] ・認定実技審査及び国家試験必修問題の合格とともに施術を行う基礎的知識の修得を目指す。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 シラバスの説明</td><td>16 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>2 国家試験対策（柔整理論）</td><td>17 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>3 国家試験対策（柔整理論）</td><td>18 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>4 国家試験対策（柔整理論）</td><td>19 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>5 国家試験対策（柔整理論）</td><td>20 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>6 国家試験対策（柔整理論）</td><td>21 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>7 国家試験対策（柔整理論）</td><td>22 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>8 国家試験対策（柔整理論）</td><td>23 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>9 国家試験対策（柔整理論）</td><td>24 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>10 国家試験対策（柔整理論）</td><td>25 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>11 国家試験対策（柔整理論）</td><td>26 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>12 国家試験対策（柔整理論）</td><td>27 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>13 国家試験対策（柔整理論）</td><td>28 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>14 まとめ</td><td>29 国家試験対策（必修）</td></tr><tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr><tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr></table>						1 シラバスの説明	16 国家試験対策（必修）	2 国家試験対策（柔整理論）	17 国家試験対策（必修）	3 国家試験対策（柔整理論）	18 国家試験対策（必修）	4 国家試験対策（柔整理論）	19 国家試験対策（必修）	5 国家試験対策（柔整理論）	20 国家試験対策（必修）	6 国家試験対策（柔整理論）	21 国家試験対策（必修）	7 国家試験対策（柔整理論）	22 国家試験対策（必修）	8 国家試験対策（柔整理論）	23 国家試験対策（必修）	9 国家試験対策（柔整理論）	24 国家試験対策（必修）	10 国家試験対策（柔整理論）	25 国家試験対策（必修）	11 国家試験対策（柔整理論）	26 国家試験対策（必修）	12 国家試験対策（柔整理論）	27 国家試験対策（必修）	13 国家試験対策（柔整理論）	28 国家試験対策（必修）	14 まとめ	29 国家試験対策（必修）	前期末試験	後期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 シラバスの説明	16 国家試験対策（必修）																																				
2 国家試験対策（柔整理論）	17 国家試験対策（必修）																																				
3 国家試験対策（柔整理論）	18 国家試験対策（必修）																																				
4 国家試験対策（柔整理論）	19 国家試験対策（必修）																																				
5 国家試験対策（柔整理論）	20 国家試験対策（必修）																																				
6 国家試験対策（柔整理論）	21 国家試験対策（必修）																																				
7 国家試験対策（柔整理論）	22 国家試験対策（必修）																																				
8 国家試験対策（柔整理論）	23 国家試験対策（必修）																																				
9 国家試験対策（柔整理論）	24 国家試験対策（必修）																																				
10 国家試験対策（柔整理論）	25 国家試験対策（必修）																																				
11 国家試験対策（柔整理論）	26 国家試験対策（必修）																																				
12 国家試験対策（柔整理論）	27 国家試験対策（必修）																																				
13 国家試験対策（柔整理論）	28 国家試験対策（必修）																																				
14 まとめ	29 国家試験対策（必修）																																				
前期末試験	後期末試験																																				
15 試験解説	30 試験解説																																				
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学（理論編第7版・実技編第2版）南江堂			[単位認定の方法及び基準] 出席 4／5 を必要とする。前・後期の筆記試験の評価の合計 1 2 0 点以上を合格とする。																																		

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復治療学Ⅰ		担当者 専任教員・相川																																																													
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年 前期 後期																																																													
[目的・ねらい] 1 年次に学習した基礎理論・実技をもとに、これを発展させ、基本的な判断から施術の一連の流れ・対処法を学習し、実践できるようになることを目的とする。また、現場における応急処置や、柔道整復師が対応すべきか否かの判断力を養うことも目的とする。																																																																	
[内容の概要] 接骨院、スポーツ現場などといった現場での経験をもとに、臨床応用に必要なポイントを学習する。また、学習内容の現場実践のため、年度途中にフィールドワーク（学外実習）を行う場合があります。																																																																	
[修了時の達成課題（到達目標）] 柔道整復師に必要な総合的知識の習得																																																																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>16</td><td>物理療法①</td></tr><tr><td>2</td><td>後療法（概論）</td><td>17</td><td>物理療法②</td></tr><tr><td>3</td><td>後療法（手技療法）①</td><td>18</td><td>運動療法①</td></tr><tr><td>4</td><td>後療法（手技療法）②</td><td>19</td><td>運動療法②</td></tr><tr><td>5</td><td>スポーツ選手への施術①</td><td>20</td><td>後療法の応用①</td></tr><tr><td>6</td><td>スポーツ選手への施術②</td><td>21</td><td>後療法の応用②</td></tr><tr><td>7</td><td>スポーツ選手のコンディショニング①</td><td>22</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>8</td><td>スポーツ選手のコンディショニング②</td><td>23</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>9</td><td>現場での各種対応（他職種連携、活動範囲）</td><td>24</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>10</td><td>現場での各種対応（柔道整復師の活動）</td><td>25</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>11</td><td>現場での各種対応（熱中症、筋痙攣など）</td><td>26</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>12</td><td>現場での各種対応（応急処置について）</td><td>27</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>13</td><td>総合学習</td><td>28</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>14</td><td>総合学習</td><td>29</td><td>総合学習</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>30</td><td>まとめ</td></tr></table>						1	ガイダンス	16	物理療法①	2	後療法（概論）	17	物理療法②	3	後療法（手技療法）①	18	運動療法①	4	後療法（手技療法）②	19	運動療法②	5	スポーツ選手への施術①	20	後療法の応用①	6	スポーツ選手への施術②	21	後療法の応用②	7	スポーツ選手のコンディショニング①	22	総合学習	8	スポーツ選手のコンディショニング②	23	総合学習	9	現場での各種対応（他職種連携、活動範囲）	24	総合学習	10	現場での各種対応（柔道整復師の活動）	25	総合学習	11	現場での各種対応（熱中症、筋痙攣など）	26	総合学習	12	現場での各種対応（応急処置について）	27	総合学習	13	総合学習	28	総合学習	14	総合学習	29	総合学習	15	まとめ	30	まとめ
1	ガイダンス	16	物理療法①																																																														
2	後療法（概論）	17	物理療法②																																																														
3	後療法（手技療法）①	18	運動療法①																																																														
4	後療法（手技療法）②	19	運動療法②																																																														
5	スポーツ選手への施術①	20	後療法の応用①																																																														
6	スポーツ選手への施術②	21	後療法の応用②																																																														
7	スポーツ選手のコンディショニング①	22	総合学習																																																														
8	スポーツ選手のコンディショニング②	23	総合学習																																																														
9	現場での各種対応（他職種連携、活動範囲）	24	総合学習																																																														
10	現場での各種対応（柔道整復師の活動）	25	総合学習																																																														
11	現場での各種対応（熱中症、筋痙攣など）	26	総合学習																																																														
12	現場での各種対応（応急処置について）	27	総合学習																																																														
13	総合学習	28	総合学習																																																														
14	総合学習	29	総合学習																																																														
15	まとめ	30	まとめ																																																														
[使用テキスト・参考文献] 柔道整復学（理論編）改訂第7版 南江堂 解剖学 改訂第2版（医歯薬出版） 生理学 改訂第4版（南江堂）			[単位認定の方法及び基準] 学習態度、習熟度、フィールドワークでのレポートや各種試験などで総合的に判断し、前期・後期各100点満点として合計120点以上（平均60点以上）の成績を得た場合に単位を認める。																																																														

学科名 柔整学科		科目名 柔道整復治療学Ⅱ		担当者 柳樂美作男	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (1 単位)		配当学年・時期 3 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ・ 授業前半では認定実技審査の実技対策を行う。これをもって臨床現場に対応できる基礎的な実技能力を養う。 ・ 認定実技審査終了後は柔道整復理論の総論及び必修問題を中心に国家試験対策を行う。					
[内容の概要] ・ 外傷に応じた検査、整復、固定を行う。国家試験過去問題を中心に対策を行う。					
[修了時の達成課題（到達目標）] ・ ある外傷に対する検査、整復、固定の基礎知識と実技能力が発揮できる。 ・ 国家試験の必修問題をクリアできる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 ガイダンス・認定実技審査対策 2 認定実技審査対策 3 認定実技審査対策 4 認定実技審査対策 5 認定実技審査対策 6 認定実技審査対策 7 認定実技審査対策 8 国家試験対策 9 国家試験対策 10 国家試験対策 11 国家試験対策 12 国家試験対策 13 国家試験対策 14 国家試験対策 15 国家試験対策					
[使用テキスト・参考文献] 認定実技審査資料 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編			[単位認定の方法及び基準] 出席 4/5 を必要とする。 筆記試験及び実技試験を行う。 認定実技審査予備審査結果をもって実技試験成績に当てる。筆記試験、実技試験ともに 60 点以上で単位を認定する。		

学科名 柔整学科	科目名 臨床実習 I	担当者 埜 義徳	
種類 (講義・演習・ 実習)	回数 23回	時間数(単位数) 45時間 (1単位)	配当学年・時期 1学年 前期 ・ 後期
[目的・ねらい] テーピング法、運動療法、障害予防、競技力向上のための関節可動域運動や筋力増強運動について理解を深める。また、実技を通してそれらの技能・指導能力を身につける。 [内容の概要] 解剖学・運動学を交えて各部位に対するテーピング実技を行う。 実際に身体を動かしながら関節の構造や筋の作用などを学ぶ。グループワーク、ディスカッションを取り入れ、動作の観察、問題点の修正などを行う。 [修了時の達成課題（到達目標）] 関節可動域や筋力増強運動などの運動指導能力、現場で必要なコミュニケーション術を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 足関節周囲の機能解剖 2. 足関節捻挫について 3. 足関節テーピングの基礎 4. 足関節テーピングの基礎 5. 足関節テーピングの基礎 6. 足関節テーピングの応用 7. 足関節捻挫の予防とリハビリ 8. 実技テスト 9. 膝関節周囲の機能解剖 10. 膝関節テーピングの基礎 11. 膝関節テーピングの基礎 12. 膝関節テーピングの基礎 13. 膝関節テーピングの応用 14. 実技テスト 15. その他のテーピング		16. 運動指導（コアトレーニング） 17. 運動指導（コアトレーニング） 18. 運動指導（リズムトレーニング） 19. 運動指導（リズムトレーニング） 20. 運動指導（ライントレーニング） 21. 運動指導（リズムステップ） 22. 運動指導（リズムステップ） 23. 実技テスト	
[使用テキスト・参考文献] 解剖学改訂第2版 配布資料		[単位認定の方法及び基準] 全授業の出席を必要とする。 実技テスト、授業への参加態度、内容の理解度、などを総合的に評価し60点以上を合格とする。	

学科名 柔整学科	科目名 臨床実習Ⅱ	担当者 (前期) 太田 (後期) 埜 義徳	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 23回	時間数(単位数) 45時間 (1単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 実技を通じて基本的な水硬性キャスト材・テーピングを使用した固定法を身につける。 [内容の概要] 水硬性キャスト材・テーピングの扱いを修得する。 [修了時の達成課題 (到達目標)] (前期) 外傷に対する固定法の習得 (後期) 触診・手技の習得			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <前期> 1. ショートアーム (1) 2. ショートアーム (2) 3. サムスパイカ (1) 4. サムスパイカ (2) 5. ハンギングキャスト (1) 6. ハンギングキャスト (2) 7. ショートレグ・松葉杖：三点支持補講 (1) 8. ショートレグ・総腓骨神経麻痺 (2) 9. ショートレグ・ヒール装着 (1) 10. ショートレグ・ヒール装着 (2) 11. シュガータンク固定 (1) 12. シュガータンク固定 (2) 13. 体幹ギプス (1) 14. 体幹ギプス (2) 15. 予備		<後期> 担当：埜 16. 身体の面と軸 (復習) 17. 関節の動き (用語) 18. 関節の構造 (肩・肘関節) 19. 関節の構造 (肩・肘関節) 20. 肩・肘関節基本テーピング 21. 肩・肘関節基本テーピング 22. 関節の構造 (手関節) 23. 手関節基本テーピング	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 全出席かつ、レポートなどの評価を総合的に判断する。	

学科名 柔整学科	科目名 臨床実習Ⅲ		担当者 専任教員
種類 (講義・演習・ 実習)	回数 45	時間数(単位数) 90時間(2単位)	配当学年・時期 3学年 前期 後期
[目的・ねらい] 現代社会における柔道整復師に必要な技術・知識を養い、資格取得後に自信を持って業を行える土台を作ることが目的である。 [内容の概要] ・認定実技審査で出題される項目の実技を習得することで、臨床現場で応用できる技術を習得する。 ・国家試験に重要な事項を理解し、知識をつけ、国家試験取得に向けて準備をする。 [修了時の達成課題(到達目標)] ・認定実技審査に合格する。 ・柔道整復師の技術を理解したうえで修得する。 [授業の日程と各回のテーマ・内容] ※各回のテーマ内容は別紙を配布する。 【前期】 水曜日(15回)：担当：柳 樂(整復) 金曜日(15回)：担当：埴(固定) 【後期】 火曜日(15回)：担当：埴(国家試験対策)			
[使用テキスト・参考文献] 認定実技審査資料(骨子) 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編		[単位認定の方法及び基準] ・全出席を基本とし、校内実技試験において60点以上の評価を受けた者に単位を認定する。 ・授業態度が著しく悪い場合は単位を認めないことがある。 ・欠席した場合、状況に応じて学科で協議して対応を決定する。	